

社会福祉法人ひかり

令和5年度 事業報告

目次

【法人の理念】	．．．．．	P. 1
【法人の使命】	．．．．．	P. 1
1. 人財確保の取り組み	．．．．．	P. 2
2. 新たな事業展開 / 既存事業の拡充・充実	．．．．．	P. 2
3. 法人運営について	．．．．．	P. 2
4. 指定障害福祉サービス等実地指導について	．．．．．	P. 4
5. 経営会議について	．．．．．	P. 4
6. 職員の入職・退職について	．．．．．	P. 5
7. 地域との連携強化・地域社会づくり、 情報発信力の強化について	．．．．．	P. 5
8. 人財育成および資質向上について	．．．．．	P. 6
9. 虐待防止委員会の開催について	．．．．．	P. 6
10. 新型コロナウイルス感染症拡大防止 に係る対応について	．．．．．	P. 6
I. 東戸塚地域活動ホームひかり		
1. 日中活動事業	．．．．．	P. 7
2. 生活支援事業	．．．．．	P. 15
3. 相談支援事業	．．．．．	P. 20
4. おもちゃ文庫事業	．．．．．	P. 30
5. 余暇活動支援事業	．．．．．	P. 32
6. 地域交流事業	．．．．．	P. 34
7. 各委員会	．．．．．	P. 36
II. ラフォーレさくら	．．．．．	P. 38
III. 後見的支援センターとつかエコー	．．．．．	P. 43
IV. 相談支援事業所こだま	．．．．．	P. 45
V. ホープ川上	．．．．．	P. 46

【法人の理念】

「人間らしく生きること」

すべての人が、人間として、その人らしく生きることがを支援します。

【法人の使命】

1. 地域の人々の、障がいへの理解を推進すること。
2. 利用者の QOL（生活の質）を高める支援を行うこと。
3. 利用者個々のニーズに応え、利用者自らが主人公となる活動を提供すること。
4. 職員は常に学ぶことを忘れず、自己研鑽に努めること。
5. 区内および近隣区の福祉・教育・保健・医療等の関係機関、団体と連携し、地域ケアシステムにおけるネットワーク形成の拠点となること。

1. 人財確保の取り組み

少子高齢化による人口減少を迎え、人財不足は今後さらに深刻化することが予想され、当法人としても人財確保は大きな課題となっています。

人財確保を目的として、採用活動においては、新卒採用の求人サイトを活用し、募集ルートの拡大を図りました。また、実習生の受け入れも積極的に行いました。実習生の受け入れは、就職を希望する学生を増やす重要な機会になります。実習を終えた後も、ボランティアやアルバイトとして、つながりが途切れない様にしました。

2. 新たな事業展開 / 既存事業の拡充・充実

新たな事業展開として、人財・組織体制の強化に取り組み、令和6年4月から「横浜市障害者自立生活アシスタント事業」及び「自立生活援助事業」を開始できるように進めました。

既存事業の拡充・充実では、東戸塚地域活動ホームひかりの日中活動事業について、令和6年4月から「生活介護」の定員を35名から40名に変更する申請を行いました。

公益性と非営利性の両面を備え、良質な福祉サービスを継続して提供していく使命を持つ社会福祉法人が、地域ニーズに応え、その役割を発揮していくことが重要です。また、社会福祉法人型障害者地域活動ホームを運営する法人としての役割・責任を自覚して、地域ニーズに応えた事業展開を進めていきます。

3. 法人運営について

今年度の理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の開催状況は、以下の通りです。

名 称	日 時	内 容
第83回 理事会	令和5年6月2日(金) 18:00~19:30	《議決事項》 ・令和4年度 事業報告案の件 ・令和4年度 決算案の件 ・令和4年度 監事監査報告の件 ・新役員選任の件 ・評議員会開催の件 《報告事項》 ・令和4年度 社会福祉充実残額の件

<p>第 63 回 評議員会</p>	<p>令和 5 年 6 月 21 日 (水) 16:00~17:30</p>	<p>《議決事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 4 年度 決算案の件 ・ 令和 4 年度 監事監査報告の件 ・ 齊藤 進治 理事選任の件 ・ 中瀬 明德 理事選任の件 ・ 望月 淳一 理事選任の件 ・ 宮坂 俊彦 理事選任の件 ・ 中田 聡 理事選任の件 ・ 甘糟 直行 理事選任の件 ・ 河原 則夫 監事選任の件 ・ 雲居 芳昌 監事選任の件 <p>《報告事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 4 年度 事業報告の件 ・ 令和 4 年度 社会福祉充実残額の件
<p>第 84 回 理事会</p>	<p>令和 5 年 6 月 21 日 (水) 18:00~19:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新役員同意の件 ・ 理事長選定の件 ・ 業務執行理事選定の件 ・ 給与規程一部改正の件 ・ 職場におけるハラスメントの防止に関する 規程制定の件 ・ 評議員選任・解任委員任命の件
<p>第 85 回 理事会</p>	<p>令和 5 年 12 月 21 日 (木) 17:00~18:30</p>	<p>《議決事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 5 年度 上半期 事業の現状、 今後の取り組みの件 ・ 令和 5 年度 第 1 次補正予算案の件 ・ 給与規程一部改正の件 ・ 評議員選任候補者の件 <p>《報告事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事長の職務執行状況報告の件 ・ 業務執行理事の職務執行状況報の件
<p>第 3 回 評議員選任 ・ 解任委員会</p>	<p>令和 6 年 3 月 19 日 (火) 17:00~18:30</p>	<p>《報告・説明事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人ひかり 評議員選任・解任委員会 運営規程の件 <p>《議決事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「社会福祉法人ひかり評議員の選任(案) 森島一氏」審議の件

第 86 回 理事会	令和 6 年 3 月 27 日 (水) 18:00~19:30	《議決事項》 ・ 令和 5 年度 最終 (第 2 次) 補正予算案の件 ・ 令和 6 年度 事業計画案の件 ・ 令和 6 年度 当初予算案の件 ・ 運営規程一部改正及び制定の件 ・ 経理規程一部改正の件 ・ 給与規程一部改正の件 《報告事項》 ・ 理事長の職務執行状況報告の件 ・ 業務執行理事の職務執行状況報告の件 ・ 評議員選任の件
------------	------------------------------------	--

4. 指定障害福祉サービス等実地指導について

指定障害福祉サービス等の実地指導が実施されました。結果、改善を要する事項はありませんでした。

指摘事項については、改善を図りました。

- ◆対象事業所 東戸塚地域活動ホームひかり
- ◆対象事業 (1) 障害福祉サービス事業 (生活介護)
(2) 横浜市地域活動支援センター事業デイサービス型
(3) 横浜市障害者地域活動ホーム事業 (補助事業)
- ◆実施日時 令和 5 年 9 月 14 日 (木) 9 時 00 分~14 時 45 分
- ◆担当者 横浜市 健康福祉局 障害福祉保健部 障害施設サービス課 職員 5 名

指摘区分	通知事項
指摘事項	
・ 欠席時対応加算を算定する場合は、連絡調整や相談援助の内容について、記録の充実を図ること	
・ 医師による利用者の健康管理及び療養上の指導の内容について、記録の充実を図ること	

5. 経営会議について

理事長、管理者、法人本部事務員、事務部長を構成メンバーとして、経営・運営上の課題検討に加え、理事会・評議員会の準備と開催時期の検討など、毎月 1 回オンラインにて開催しました。

6. 職員の入職・退職について

<東戸塚地域活動ホームひかり>

【入職】	令和 5 年 4 月	看護師	1 名	(パート：女性)
	令和 5 年 5 月	生活支援員	1 名	(パート：男性) ※
	令和 6 年 2 月	生活支援員	2 名	(パート：男性) ※
		生活支援員	1 名	(パート：女性) ※
		生活支援員	1 名	(パート：女性)
【退職】	令和 5 年 8 月	生活支援員	1 名	(パート：女性)
	令和 5 年 12 月	生活支援員	1 名	(パート：女性)
	令和 6 年 3 月	生活支援員	1 名	(パート：女性)
		生活支援員	3 名	(パート：男性) ※

※学生アルバイト

<相談支援事業所こだま>

【入職】	令和 5 年 5 月	相談支援員	1 名	(常勤 : 男性)
------	------------	-------	-----	-----------

<相談支援室こだま・自立生活援助こだま>

【入職】	令和 6 年 1 月	アシスタント	1 名	(常勤 : 男性)
------	------------	--------	-----	-----------

<ホープ川上>

【入職】	令和 6 年 3 月	世話人	1 名	(パート：女性)
【退職】	令和 6 年 3 月	世話人	1 名	(パート：女性)

7. 地域との連携強化・地域社会づくり、情報発信力の強化について

2021年に第4期 とつかハートプラン（戸塚区地域福祉保健計画）がスタートして、3年目を迎えました。基本理念の『誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現』を目指し、地域交流事業を中心に取り組みを進めました。

9月に東戸塚地域活動ホームひかりの主催イベントとして、小児がんの当事者活動を支援する「ぴっかり★レモン祭り」を開催しました。一般社団法人みんなのレモネードの会の協力を得て啓発活動を行いました。久しぶりの大きなイベントに、たくさんの地域の方に遊びに来ていただきました。今後も当事者活動を支援するとともに、障がいのある人たちに寄り添い安心して自立した地域生活ができるよう、地域社会の中の役割とその課題に対応できるように取り組んでいきます。

11月にヤマト運輸労働組合青年部と大学生が企画したイベント「なるこ・DE・ダンス」を東戸塚地域活動ホームひかりで開催しました。「ヤマト繋がるプロジェクト」と題する企画で、とつか区民活動センターが連携団体になっています。平日の開催でしたがたくさんの学生とヤマト社員の方に来ていただきました。全国からリモートで参加される方もいて、鳴子作りやダンスを楽しみました。今後も福祉分野を超えて地域の方や企業と連携を深めていきます。

戸塚区のコミュニティ FM 局として、地域に密着した情報を発信しているエフエム戸塚の「Radio Familiar」の番組提供を継続しました。4月に出張ラジオ局「ひかりサテ

ライトラジオ」を開設し、収録した利用者と地域の方の声を後日3回に分けて番組内で紹介いただきました。

理事長が株式会社エフエム戸塚の放送番組審議委員として、放送番組審議会に出席し、エフエム戸塚が放送する番組を審議しました。また、東戸塚を中心に多様な事業者が加入している東戸塚絆の会への参加や地域で開催されたイベントをサポートする等、地域との連携強化を図り、地域住民の障害福祉の理解を深めるよう努めました。

8. 人財育成および資質向上について

外部研修を中心に、関係職員を参加させ、職員の資質向上に努めました。人権尊重と意思決定支援として、8月に戸塚区地域自立支援協議会主催の『権利擁護研修』、1月に戸塚区地域自立支援協議会主催の横浜市ヤングケアラー研修事業「ヤングケアラーの暮らしと声を通じて学ぶ・考える」に職員を参加させています。

その他の参加した研修については、各事業で報告しています。また、職場内での事業担当や委員会活動、自立支援協議会等、職場内外で様々な役割を担い、受け身ではなく主体者として職場や地域に発信できる力を育てました。

9. 虐待防止委員会の開催について

今年度は、11月と3月に虐待防止委員会を開催しました。身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会と一体的に運用しました。当事者委員として、日中活動の利用者2名が参加しています。

開催月	内容
11月	・社会福祉法人ひかり 身体拘束等の適正化のための指針 ・職員研修の実施状況 ・事故報告、ヒヤリ・ハット報告、苦情報告（上半期） ・身体拘束ケースの対応（上半期）
3月	・令和5年度 職員研修の実施状況 ・令和5年度 事故報告、ヒヤリ・ハット報告、苦情報告 ・令和5年度 身体拘束ケースの対応 ・施設における虐待防止チェックリスト

10. 新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る対応について

1月下旬から2月上旬にかけて、東戸塚地域活動ホームひかりの日中活動事業で複数の利用者の感染が報告されました。

新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類感染症に移行後、東戸塚地域活動ホームひかりの日中活動事業の外出プログラムや宿泊旅行、喫茶、地域交流イベントを再開しました。おもちゃ文庫の開室・地域交流室の貸し出しについては、地域の感染状況を見ながら年間を通して実施することができました。

I. 東戸塚地域活動ホームひかり

1. 日中活動事業

(1) 利用実績

<令和5年度>

生活介護事業（定員35名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	20	22	20	20	20	21	20	20	19	19	20	241	20.0
延利用者数	766	749	816	742	742	740	793	764	770	675	646	748	8,951	745.9
利用者数/日	38.3	37.4	37.0	37.1	37.1	37.0	37.7	38.2	38.5	35.5	34.0	37.4	-	38.6
入浴利用人数	26	30	23	27	31	28	29	35	24	26	29	29	337	28.0
送迎利用人数	743	756	819	756	772	764	817	768	781	727	695	773	9,171	764.2

地域活動支援センター事業（定員10名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	20	22	20	20	20	21	20	20	19	19	20	241	20.0
延利用者数	43	45	49	41	43	46	47	39	47	40	33	42	515	42.9
利用者数/日	2.1	2.2	2.2	2.0	2.1	2.3	2.2	1.9	2.3	2.1	1.7	2.1	-	2.1
入浴利用人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
送迎利用人数	16	16	18	16	12	16	14	14	16	10	8	16	172	14.3

<令和4年度>

生活介護事業（定員35名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	22	241	20.0
延利用者数	702	702	839	776	776	744	753	740	745	695	684	836	8,992	749.3
利用者数/日	35.1	36.9	38.1	38.8	38.8	37.2	37.6	37.0	37.2	36.5	36.0	38.0	-	37.2
入浴利用人数	25	27	32	17	19	24	28	30	32	30	23	23	310	25.8
送迎利用人数	676	665	807	766	638	674	721	727	725	680	658	818	8,555	712.9

地域活動支援センター事業（定員10名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	22	241	20.0
延利用者数	41	45	50	47	44	38	46	44	49	38	34	50	526	43.8
利用者数/日	2.0	2.3	2.2	2.3	2.2	1.9	2.3	2.2	2.4	2.0	1.7	2.2	-	2.1
入浴利用人数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
送迎利用人数	25	16	16	16	13	14	16	18	16	16	16	14	196	16.3

生活介護			
平均障害支援区分	5.2	障害支援区分5と6の利用者割合	74%

4月の新規利用者受け入れはなく、利用者はのべ71名のスタートとなりました。

契約日数が増えた利用者もいた反面、契約日数の増加を希望していた利用者の受け入れが進展しなかったケースもありました。

新型コロナウイルスや季節性インフルエンザ等の感染症に関しては、前年度から引き続き陽性の場合は通所を控えていただいて蔓延防止に努めました。

少しずつ再開していた外部講師を招いての活動プログラムもほぼコロナ禍前のようになり、中止となっていた看護師巡回指導も実施しました。

利用者支援に関しては、週に3日通所していた利用者が12月に亡くなりました。特別支援学校を卒業後、他事業所との併用利用でしたが、しばらくして他事業所への通所はなくなり、ここ数年はひかりのみ通所している状況だったので、亡くなってからしばらく経過した後家族から感謝の言葉をいただきました。

他の利用者に関しては、計画相談員や基幹相談、生活支援部と連携し、通院同行や短期入所先の見学同行など日中活動以外の場面にも注視し、包括的に支援ができるよう努めました。

活動プログラムに関しては新しい自主製品の作成等取り組みましたが、「しごと」を意識した活動プログラムの提供を十分に行ったとは言い難い為、次年度に向けて大きな課題の一つとなりました。

(2) 日中活動全体

1) 職員体制

非常勤職員が増員となり、常勤と非常勤とで連携して支援にあたりました。

週間シフト表を毎週作成し、利用者数や入浴サービスを考慮したうえで職員配置を決めました。また、感染症等で職員が急遽欠勤となった際も互いにフォローして日々運営しました。

2) ケア会議

昨年度に続いて月例でケア会議を開催し、利用者支援や活動プログラム内容等について話し合い、事故、ヒヤリ・ハット報告を検証して再発防止に努めました。

相談支援事業所こだまの計画相談員とは月例で担当者会議を開催し、新しい情報を相互に確認してより多面的な支援を行うことができました。

3) 外出・余暇活動

忘年会や二十歳を祝う会など季節ごとのイベントを実施し、11月には3年ぶりに宿泊旅行を実施しました。

下半期に一日外出を実施したグループの利用者複数名が後日感染症や体調不良となった為、他のグループは一日外出を見合わせました。次年度は時期や行き先などを慎重に検討して実施していきます。

4) 地域とのつながり

継続して「お茶の間楽交」に自主製品を置かせていただき、戸塚区社会福祉協議会へのクッキー・マドレーヌ納品も引き続き行いました。

例年参加している赤い羽根共同募金活動の他、1月には能登半島地震義援金募金活動にも数名の利用者と職員とで参加しました。

5) 情報の発信

3年ぶりに家族向け懇談会を開催し、法人全体と各グループの事業計画をお伝えしました。また、家族から貴重な意見・要望等をいただきました。

日中活動の利用者や家族向けの機関紙「その人らしく」では今年度から再開した一日外出や忘年会等のイベントを中心に紹介し、写真を多く載せることで連絡帳では伝えきれない様子を少しでもお伝えできるよう工夫しました。また、日々の様子をホームページのブログにも掲載し、家族はもちろん、より多くの方に発信できるよう努めました。

6) 実習生の受け入れ

高等部3年生6名、2年生2名の計8名を受け入れました。

No.	実習			性別	学校名<学年>	居住区	目的
	月	所属	期間				
1	6月	フェニックス	3日間	男	本郷特別支援学校	戸塚区	進路
2		カシオペア	3日間	男	本郷特別支援学校	戸塚区	進路
3	10月	フェニックス	3日間	男	保土ヶ谷支援学校	戸塚区	進路
4		カシオペア	3日間	男	三ツ境支援学校	戸塚区	進路
5			3日間	女	上菅田特別支援学校	保土ヶ谷区	進路
6		フェニックス	3日間	男	保土ヶ谷支援学校	旭区	進路
7	3月	カシオペア	1日間	男	左近山特別支援学校	戸塚区	体験
8		ペガサス	1日間	男	東俣野特別支援学校	戸塚区	体験

7) 健康管理

7月に清水橋クリニックに来ていただき、利用者、職員共に健康診断を実施しました。

毎月 木原歯科・内科医院の原口医師に、日常生活上の健康管理の指導をしていただき、今年度も新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザについて、陽性者・濃厚接触者が判明した際の対応方法や、感染予防に関して等の助言をいただきました。加齢による身体機能の低下が顕著な利用者についても、主に医療面のアドバイスをいただきました。

(3) 各グループ

1) DEM

3月末時点で利用者は計12名（男性7名、女性5名）の在籍となりました。

活動内容は、パン製造では若手メンバーは技術的にまだ発展中であり、中堅メンバーは年齢による体力面の低下が見られました。商品のクオリティを維持するのが難しい面があったため基本に忠実に、速さよりも丁寧な作業を意識するよう声掛けを行いました。新型コロナウイルス感染症5類移行に伴いイートインスペースを再開しましたが、飲み物の販売や外販は再開には至りませんでした。

主催イベントや地域のお祭りでパンを販売する機会が多くありました。都度「完売」し、メンバーのモチベーションの向上につながりました。

今年度は「納め会」での外食を8月と12月に行い、1月に1日外出として「原鉄道模型博物館」に出掛けました。久しぶりにメンバーでの外食や外出を楽しみました。

2) フェニックス

カシオペアとの併用利用者を含め、3月末時点で利用者は計20名（男性13名、女性7名）の在籍となりました。在籍者1名が週3日利用だった利用日を1日増やし、1月より週4日利用となりました。

活動内容は、缶つぶしと創作を主軸に取り組みました。缶つぶしでは定期的につぶした缶を産廃業者へ持って行って換金し、収益としました。取り組んだ量に比例して収益も増えるため、モチベーションを維持して取り組むことができました。創作では、以前より製作していただくみボタンをリボンに取り付けて製品化する作業を主軸に行いました。まだ製作数は少量ですが、利用者それぞれの得意な作業を分担して行うことで、徐々に製作数を増やすことができました。今年度を通して収益の主軸は缶つぶしとなっていました。作業量に対して集めた缶の量が少ない傾向となってしまう、思うように作業量を確保することが難しかったことが次年度に向けての課題となりました。

余暇活動においては新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを受け、近隣施設への買い物や散歩を再開しました。長らく外出する機会の無かった利用者にとっては貴重な時間となり、自然と笑顔になられている方や積極的に体を動かそうとされる方がいて、とても良い刺激となる機会を提供することができました。

3) ペガサス

3月末時点で利用者は計10名（男性5名、女性5名）の在籍となりました。

活動内容は、身体機能の維持や体重増加の防止に努めた運動プログラム（体操・ストレッチ・振動マシン等）を主軸に行いました。体操やストレッチはバリエーションの幅を広げるため、教材や体操・ストレッチ本のDVDを活用しながら取り組みました。

月初めに、健康の目安として体重測定を実施しました。各々の体重変化について

把握するため、年間体重測定表を作成してまとめました。これからは、体重表を活かした形で、運動プログラムの回数や内容を改めて見直す必要があると感じました。その他には、貼り絵・季節飾りの創作活動や、アロマ・スヌーズレン・音楽鑑賞・DVD鑑賞等の五感を刺激した活動を定期的に取り入れました。完成した貼り絵作品は、利用者自身に達成感や喜びを感じて貰えるように、おもちゃ文庫付近の空いているスペースに作品展示コーナーを設置して展示しました。作品に関して、他グループの利用者や職員から感想をもらうことが度々あったため、これからは利用者自身に意見や感想が届くように工夫していきたいと考えています。また、余暇活動(的あて・カードゲーム・ゴールボール・テーブルカーリング等)も活動に取り入れ、気分転換を図りました。

地域の方々と触れ合うきっかけになる近隣への外出(図書コーナー・買い物・散歩等)は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、少人数で担当者を決めて、順番に利用しました。季節に合わせた本や、利用者自身が気に入った本を借りて、皆で読書を楽しみました。

月間プログラム作成は前年度と同様に利用者も交えて作成し、季節に因んだプログラム内容を計画・立案・実施しました。グループごとの外部講師プログラムにも参加し、一人ひとりが積極的に取り組まれていました。

4) カシオペア

フェニックスとの併用利用者を含め、3月末時点で利用者は計20名(男性7名、女性13名)の在籍となりました。

活動内容は、ビーズ、紙すき、フェルトなどの自主製品作りを主軸に行いました。利用者と一緒に販売する機会がなかったため、実際に商品を手にとっていただく姿を見てもらうことは叶いませんでしたが、イベントなどで売り上げを報告すると、喜ばれる姿が見られ、モチベーションの向上につながった様子でした。一方、職員や利用者の入れ替わりがある以上、品質の維持向上に努めることや、より手に取っていただける新商品の開発などが喫緊の課題になりました。余暇活動では、季節に合わせた創作や、振動マシーンやペダルを使った器械運動の他、動画鑑賞や、ポッチャ、モルックなどのスポーツも行いました。また、9月にはカシオペア祭を行い、メンバー同士、楽しそうに話されながら参加されました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを受け、買い物や近隣の公園などへの外出頻度を増やしました。なかなか出かけることに見通しを持つことが難しい利用者にも、根気よく外出する旨をお伝えし、段々と出かけられるようになりました。また、上半期には久しぶりに一日外出を行い、みなとみらいへ出かけました。外出先では普段はなかなか体験できないことも皆で共有し楽しまれていました。

5) ミルキーウェイ

3月末時点で利用者は計8名(男性8名)の在籍となりました。

活動内容は、木工作業を主軸に午前中は主にやすりがけ作業を行い、午後は動画やDVDを観ながら身体を動かしたり、器具を使用しての運動を行いました。新たに

購入したペダルマシンを行ったりベランダを歩いたりして身体機能の低下を防ぎ、下肢筋力・現在の体重の維持を目指しました。利用者の加齢も考慮して、嚥下体操も取り入れました。レクリエーション要素を含んだプログラム（ボッチャやテーブルカーリング等）も行い、利用者同士の親睦を深めました。

一日外出は下半期も実施し、鎌倉散策を楽しみました。

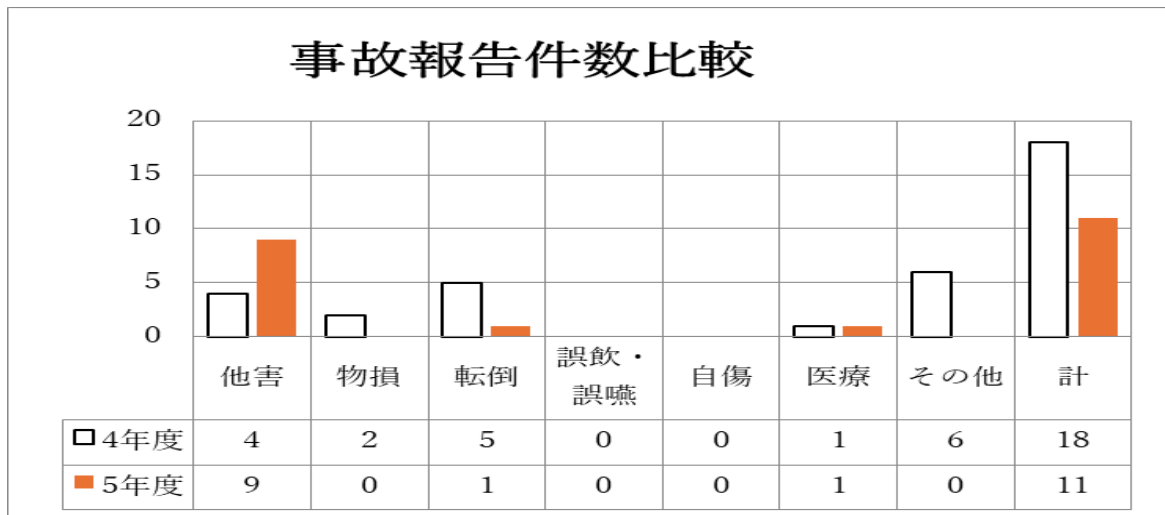
ホープ川上に入居している利用者に関しては、昼夜通して安定した生活が続くようグループホーム職員と常時連携を図りました。

木工作业、余暇的な活動共に、プログラム内容の見直し・充実が課題として挙げられました。また、今年度相談支援事業所こだまと契約した利用者が数名いましたが、担当者会議で話し合った中で、併用事業所とより連携を深めることも課題として挙げられました。利用者同士の関係性もお互いに備品に固執して時に押し問答となることもあった為、良好な関係性を築くこと。その為に互いに折り合いをつけられるよう、双方への適した対応を継続することも今後の課題の一つとして挙げられました。

(4) 事故/ヒヤリ・ハット

1) 事故

計 11 件の事故が発生、報告されました。全体の報告件数は昨年度と比較し、減少しました。分類別に見ると、他害の項目が多く挙げられました。同じ利用者による、突発的で明確な要因が汲み取れないケースが大半でした。あり得る要因を 1 つずつ考察し、情報収集しながらあらゆる対処法を実践しました。



以下、事故の中から、抜粋して掲載します。

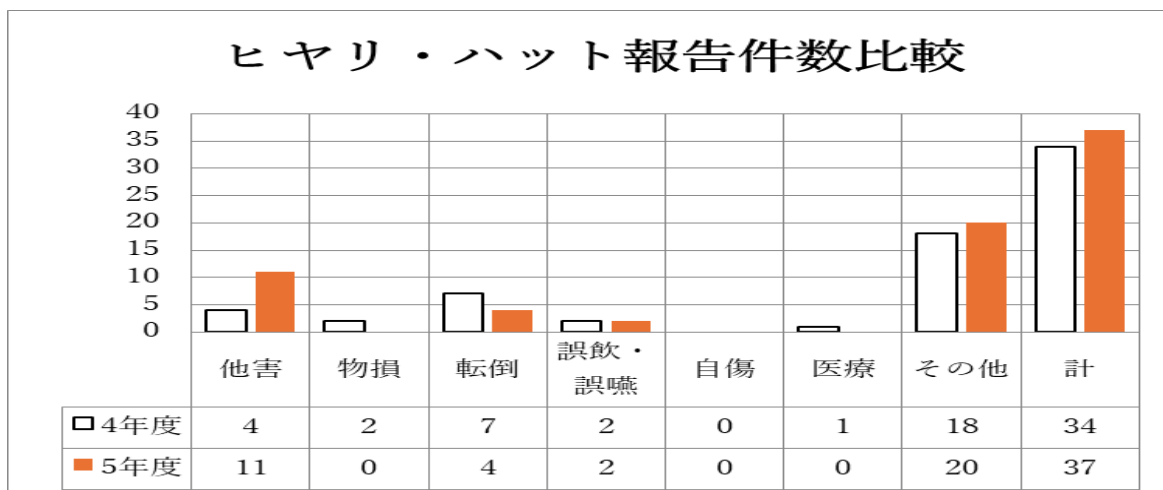
【事例】

- ・ 帰り支度が終了し、帰りの会を待っている間、不穩になり近くにいた他利用者の頭を叩いてしまった。

→ 叩いてしまった利用者にはすぐに聞き取りを行いました但明確な理由は不明でした。考えられる要因の1つとして、他利用者同士のやり取りがヒートアップし室内が騒がしい環境だったことが挙げられました。その日1日だけでなく前日や自宅での様子にも注目し、利用者の変化があれば職員間で共有するようにし、小さな変化も見逃さず、突発的な行動があることを前提に支援していきます。

2) ヒヤリ・ハット

計37件のヒヤリ・ハットが発生、報告されました。報告件数は昨年度と比較して同程度でした。分類別に見ると他害、その他の項目が多く挙げられました。他害の項目では事故報告でも対象となった利用者のケースが多く、対象利用者と職員との関係が少しずつ構築される中で、事故へと発展する前に対応ができるケースもありました。その他の項目では送迎車内での利用者の立ち上がり行為や送迎表の記載漏れ等が挙げられました。



以下、ヒヤリ・ハットの中から、抜粋して掲載します。

【事例】

- ・他利用者が何度も声をかけてきたことでイライラし、引っ掻こうとする素振りを見せていた。近くにいた職員が声をかけた所で本人は手を引いていて、それ以降は情緒面で乱れた様子はなかった。本人は引っ掻こうとした自覚がある様子だった。
- 本人が過ごす場所は他利用者と距離が取れる位置に設定し対応しています。その上で本人と他利用者の中に職員が入るよう職員配置を考え、特にターゲットになりやすい利用者には注意を払うようにします。

(5) 学習・研修参加

職員としての資質向上や技術・知識の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No.	開催月	研修名	場所	参加者
1	7月	地震・火災体験ツアー	横浜市民防災センター	武藤
2		おもちゃインストラクター養成講座	東京おもちゃ美術館	樋口
3	8月	福祉現場におけるアンガーマネジメント研修	ウィリング上大岡	諏訪
4		戸塚区地域自立支援協議会・全体会 「権利擁護研修」	戸塚区役所	常勤職員
5	9月	サービス管理責任者基礎研修	神奈川県社協 福祉研修センター	野口
6	11月	高齢期の障がいのある方へのかかわり	東戸塚地域活動ホームひかり (オンライン))	諏訪
7	1月	戸塚区地域自立支援協議会・全体会 「ヤングケアラーの暮らしと声を通じて学ぶ・考える」	戸塚区役所	常勤職員

2. 生活支援事業

(1) 利用実績

1) 一時ケア

利用実績は、昨年度と比較して延べ時間が123時間増加しました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行となり、利用の依頼が増加しました。

利用者によっては、新規登録や再面談をしてからすぐにショートステイを利用したいと希望する方も多くいらっしゃいました。まずは、一時ケアから利用していただき、短時間からの利用を通して、一時ケアの過ごしに慣れてもらうことや他利用者との組み合わせを確認しました。利用者一人ひとりに応じて、ステップアップしショートステイへ繋げていきました。

一方で、夕方から夜間にかけての利用を希望する方が多く、ショートステイに向けて、学校や日中のサービスを終えてから練習の時間を作りたいという意向がありました。希望日の受け入れが難しい方には、別日で提案し、できるだけ利用していただけるように工夫していきました。

緊急時等に対応できるように近隣区や居住区の地域活動ホームを案内し、登録を勧めました。

<令和5年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
件数実績<件>	126	111	114	107	119	97	112	122	113	101	98	123	1,344	112
時間数実績<h>	400.5	344.0	316.0	307.5	387.0	289.5	338.5	381.5	347.0	294.0	335.0	344.0	4093.5	340.0
平均時間<h>	3.1	3.0	2.7	2.8	3.3	3.0	3.0	3.1	3.0	2.9	3.4	2.7		3.0
依頼数<件>	169	167	163	154	188	150	157	165	171	156	160	196	1,996	166.3
キャンセル数<件>	13	10	16	20	29	19	15	12	25	25	14	31	229	19.0
お断り数<件>	30	48	33	27	40	34	30	31	32	30	41	43	419	34.9

<令和4年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
件数実績<件>	100	109	100	122	110	96	109	97	104	93	86	109	1,235	102.9
時間数実績<h>	341.0	380.0	311.5	357.0	330.5	319.5	360.5	279.5	320.0	307.0	289.0	375.0	3,970.5	330.8
平均時間<h>	3.4	3.5	3.1	2.9	3.0	3.3	3.3	2.8	3.0	3.3	3.3	3.4		3.1
依頼数<件>	157	146	155	169	173	134	163	147	163	147	135	156	1,845	153.7
キャンセル数<件>	28	16	19	30	30	12	14	19	17	16	13	16	230	19.1
お断り数<件>	29	21	36	17	33	26	40	31	42	38	37	31	381	31.7

2) ショートステイ

利用実績は、昨年度と比較して、延べ泊数が 63 泊増加しました。

毎月たくさんの依頼が入りました。家族からは「家庭的なケアルームで温かい雰囲気の中での宿泊に魅力を感じる」「少人数の宿泊で手厚いケアの為、安心して預けられる」等の嬉しい言葉をいただきました。

依頼いただいた方、全ての方に利用していただけるように調整しています。しかし、利用者の相性等で組み合わせが難しい場合や、マンツーマン対応（他害がある方や突発的な動きや声が出る方）を行っているケースもあります。その為、受け入れの人数に限りがあります。1 人でも多くの方に利用していただけるよう、空きが出た時にはお断りした方へ、声かけするように工夫しました。

地域生活支援拠点機能の一つである「緊急時の受け入れ・対応」においては、他部署の協力を得ながら調整を行いました。受け入れ可能の返答後、長期で宿泊できる入所施設の利用、本人の希望等を理由にキャンセルとなるケースもありました。

<令和 5 年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
泊数実績<泊>	45	39	42	45	45	43	43	42	39	45	41	47	516	43
緊急<泊>	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	5	0.4
依頼数<件>	69	94	90	71	71	74	89	70	76	87	67	93	951	79.2
キャンセル数<件>	4	26	7	8	3	8	18	7	3	10	11	14	119	59.5
お断り数<件>	20	28	41	18	23	23	28	21	34	32	15	32	315	26.2

<令和 4 年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
泊数実績<泊>	35	34	43	47	34	38	42	35	36	31	37	40	452	37.6
緊急<泊>	0	1	2	3	0	1	0	0	1	0	0	0	8	0.6
依頼数<件>	53	59	72	77	76	62	66	70	61	58	55	62	771	64.2
キャンセル数<件>	4	8	6	10	21	9	5	9	3	6	2	3	86	7.1
お断り数<件>	14	17	23	20	21	16	19	26	21	21	16	19	233	19.4

(2) 登録者数の動向と傾向

新規登録者数は、48 名でした。現在の総登録者数は、1,006 名（登録された住所地から転居され、転居先不明者 136 名を除く）となります。基幹相談支援センター、区役所からの紹介を中心に、療育センターや計画相談事業所からの紹介を通しての登録もありました。また、フェイスシートの更新時に、転居やグループホーム入居等で登録の削除を希望される方もいました。各月の新規登録者は下記の通りです。

<令和5年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録者<人>	5	3	2	7	7	5	3	0	6	4	5	4	48
未就学児<人>	0	0	0	3	1	2	0	3	5	0	1	1	16
18歳以下<人>	1	1	0	3	5	1	1	4	1	2	3	2	24
18歳以上<人>	4	2	2	1	1	2	2	0	0	2	1	1	18
戸塚区内<人>	0	2	1	3	6	2	2	3	5	1	3	1	29
区外<人>	5	1	1	4	1	3	1	1	1	3	2	3	19

<令和4年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録者<人>	3	11	6	3	7	3	7	4	0	5	2	6	57
未就学児<人>	2	3	0	0	0	1	2	1	0	0	1	3	13
18歳以下<人>	0	6	5	3	5	1	3	1	0	3	1	1	29
18歳以上<人>	1	2	1	0	2	1	2	2	0	2	0	2	15
戸塚区内<人>	2	9	3	3	6	1	5	1	0	3	2	5	40
区外<人>	1	2	3	0	1	2	2	3	0	2	0	1	17

(3) 支援内容

“遊び”を通して、利用者が持っている能力を最大限に発揮し、それを生活の場面に般化することができるよう支援しました。そのため、登録面談の際には通学先や通所先での利用者の取り組みや課題を伺い、利用の都度、現在困っていることや伸ばしたい部分を家族から教えていただくことで、ニーズに直結した支援と利用者の成長に合わせた支援を行うことができました。

ショートステイにおいては、良眠の確保を第一にADL面の支援や、利用者のニーズに合わせて生活面の支援（食器洗い、寝具の準備等）を行いました。

(4) 事故/ヒヤリ・ハット

1) 事故

計2件（骨折1件、その他1件）の事故が発生、報告されました。

以下、事故の内容を掲載します。

【事例】

- ・ショートステイ利用中、就寝準備を済ませ、車椅子から床に敷いた布団に降りる際、本人の左から介助を行い、ゆっくり移乗させていたが、左足に重心がかかってしまった。その際、「パキッ」という音がした為、すぐに臥床して、全身を確認する。両脚先に熱感の違いがあり、細かく確認すると左足が腫れていた。氷枕にタオルを巻き、患部を冷やす処置を行う。

→ 車椅子から床に降りる際、本人の動きは始めるまでの時間がいつもより遅かったことから、体勢（体の向きや姿勢、足の向き等）に問題があったと思われます。今までのショートステイ利用時も同様に床に降りていた為、体勢の変化に気付かずに移乗の動作に入ったことが原因と考えられます。

翌朝、病院受診をし、レントゲン撮影を行っています。骨折の痕はあるが、本人の痛みの感じ方から、今回骨折したものか、過去のものか判断がつかないとのことでした。

今後は、体勢（体の向きや姿勢、足の向き等）を確認し、基本 2 名で介助を行います。

・ 1 年振り 2 回目の一時ケア利用で、入室してすぐに走り出しが見られた。ベッドの部屋（個室）が気に入り、ベッド上をジャンプして遊び、ベッドから降りる際に体勢を崩すこともあったが、すぐに立ち上がっていた。その旨、帰宅の際、母親へ申し送りを行った。帰宅後、母親より「自宅で歩かなくなった」と連絡あり、通院に同行した。

→ レントゲン検査では問題なく、湿布が処方されました。

突発的な動きがある為、今後も組み合わせを配慮していきます。また、転倒時に対応できるようにマットを使用して安全に過ごせる環境を整えます。

学齢期で成長段階ということもあり、予約時と受け入れ時に最近の様子を継続して聞き取りを行っていきます。

2) ヒヤリ・ハット

計 2 件（その他 2 件）のヒヤリ・ハットが発生、報告されました。

以下、ヒヤリ・ハットの内容を掲載します。

【事例】

・ 一時ケア・ショートステイの日程を留守番電話にて伝えていたが、当日のショートステイに来所されなかった。母親へ確認の連絡をしたところ、一時ケアのみでショートステイは取れていないと思っていたとのこと。確認不足だったことを謝罪する。

→ 留守番電話にて伝言を残した際は、折り返しがない場合は、こちらから再度連絡を入れて確認していきます。

・ 一時ケア利用中、成人男性がベランダに出るため一時的に開錠、リビングに戻った際に施錠を忘れてしまい、その後扉を開けて裸足でベランダに出てしまった。

→ 開錠した職員が責任をもって施錠をしていきます。スタッフを複数人配置している場合は、お互いに声を掛け合い施錠の確認を行います。

(5) 部門間連携

直接支援に関しては、日中活動部にも協力を依頼し対応しました。発作や食物アレルギー等、特別な配慮が必要な利用者については、受け入れの前に担当する職員へ申し送りを行いました。

昨年度に引き続き、相談支援部経由の登録がありました。相談支援部で関わっている既登録者については適宜、連携を図ることにより、利用者の生活状況や通学・通所状況の把握に努めました。また、必要に応じてカンファレンスにも参加しました。緊急利用の受け入れの際には日中活動部を中心に他部にも協力を依頼し、受け入れ体制を整えました。

(6) その他

登録者全員に、令和6年2月からフェイスシートの更新用紙を郵送しています。

全登録者に情報更新用のフェイスシート、個人情報の同意書、利用者の写真提供（災害時等に使用することを目的にする）依頼を送付・配布しています。令和6年6月末までに返信していただきます。

3. 相談支援事業

(1) 基幹相談支援センター

1) 総合的・専門的な相談支援の実施

基幹相談支援センターがスタートし、8年が経過しました。

年を追うごとに基幹相談支援センターの周知が進み、本人・家族をはじめ区内外の様々な機関から相談が入るようになりました。昨年度からは、地域ケアプラザと連携した地域啓発の取り組みや地域の既存の活動への参加など、地域とのつながりづくりを意識した取り組みを続けており、その結果、これまで相談につながりにくかったようなケースの相談が入ることも多くなりました。一方で、他機関からの紹介により相談が入るケースは紹介の意図や背景が掴みづらい場合も多く、他機関との相互理解や連携がより求められると感じました。

ケースの状況としては、8050世帯など外とのつながりが希薄なケースの相談が増加している他、家族状況に変化が生じ急な動きが必要になるケース、様々な状況により住居の設定が必要になるケースも多く見受けられました。本人だけでなく家族の支える力が弱く世帯全体のフォローが必要なケース、不登校から行き先がないまま卒業し在宅生活となるケースなどの相談も引き続き多く入ってきています。

依然として戸塚区内に知的障害の方を対象とした自立生活アシスタント事業がない状況が続いており、引き続き対象の方へのフォローアップを行いました。次年度からは、区内で自立生活アシスタント事業が再開となる予定です。改めて対象者について整理し、支援を必要とする方を事業の利用につなげられるよう必要な調整を行い、連携して支援に当たります。

<相談件数>

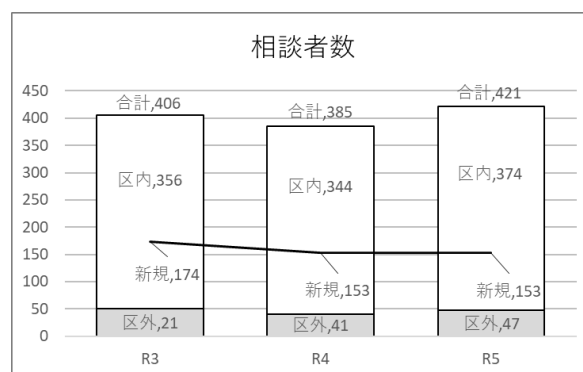
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和5年度	451	396	403	354	322	331	359	319	321	306	307	385	4,254
令和4年度	459	468	409	381	411	313	363	343	303	313	274	379	4,416

<ケア会議開催状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和5年度	9	11	6	6	7	6	7	10	12	9	14	13	110
令和4年度	4	4	10	6	11	5	7	8	6	9	8	11	89

今年度の相談件数は4,254件、相談者数は421名となり、件数は昨年度から162件の減少、相談者数は36名の増加となりました。

今年度は相談員の入れ替わりがなく、昨年度と同じ体制で業務に当たりました。

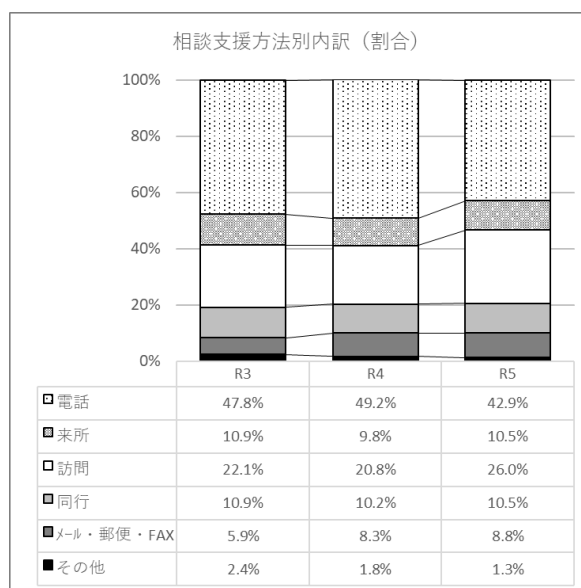
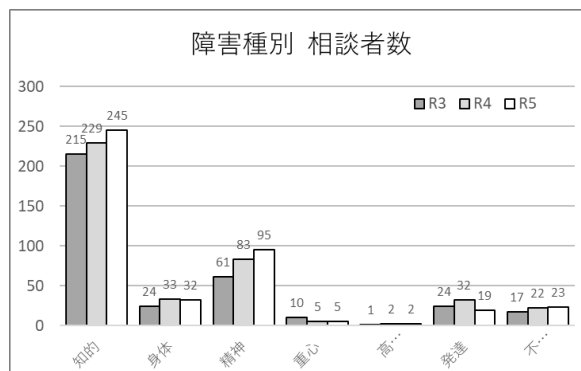


た。安定した体制の中でそれぞれの相談員が力を付けられるよう、日頃からお互いに情報共有や相談がしやすい雰囲気とチーム作りを意識し、積極的にコミュニケーションを図るよう努めました。

ケース数が多いという地域の状況もあり、個別ケースの対応に追われてしまいがちですが、対応を重ねることで徐々にケースを通して地域の状況にも目を向けられるようになってきました。

そのことにより、自分たちだけで支えるのではなく地域で支える視点が少しずつ持てるようになり、幅広い視点からのアセスメント、適切な機関へのつながりや連携、終結などについて、これまでよりも意識できるようになってきたと感じています。また、ケースにより関わり方に変化がつけられるようになり、集中的な関わりが必要なケースと緩やかに見守るケースなどとの濃淡がついてきたような印象も受けています。

引き続き、基幹業務の基本となる総合的・専門的な相談支援を行うために、相談員のスキルアップに向けた取り組みや関係機関との連携の強化、地域の状況把握や地域とのつながりづくりなど、必要な取り組みを行っていきたいと考えています。



2) 地域の相談支援体制の強化の取組

自立支援協議会「相談支援部会」の活動や、基幹相談支援センターとしての日常業務を通して、各指定特定相談支援事業所からの相談対応を行いました。また、事業所訪問と電話対応を含め、計4か所の事業所に対して現状の聞き取りや情報提供、相談支援に関する助言等を行いました。

「相談支援部会」においては、今年度もグループスーパービジョンの取り組みを行いました。支援技術の習得だけでなく、事例提供者が自らの思いを話し他者との意見交換を行うことにより、各参加者が様々な気づきとケースに向き合うための新たなモチベーションを得られる機会となりました。

この他、部会活動の充実化を目的として10月に他区（鶴見区・西区）の相談支援部会に参加しました。そこでの活動内容を参考に、今年2月に部会参加者が作成した「サービス等利用計画」と「モニタリング報告書」を持ち寄り、参加者同士で作成方法や工夫している点等について意見交換を行う機会を設定しました。参加者の多くが一人職場であり、普段から他の人が作成したものを目にしたり意見交換をしたりする機会もほとんどないことから、好評の声を多くいただきました。また、地

域の相談支援事業所の声を受けて、5月に施設入所者の方の計画相談支援を担当している相談員を集めての意見交換会を開催しました。通所施設との関わり方の違いや介入の難しさなど、相談員が抱えている悩みやジレンマを共有し、実情を知ることができる良い機会となりました。

今年度は、他区の相談支援部会への参加や、参加者の業務により直結する取り組みの実施、地域の相談支援事業所と協働での意見交換会の開催など、相談支援部会内外で地域の相談支援体制の強化に取り組むことができたと考えています。

3) 地域移行・地域定着の促進の取組

『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（にも包括）』の整備が開始されたことに伴い、自立支援協議会「精神保健福祉部会」を『にも包括』の協議の場と位置付けて活動しています。

「精神保健福祉部会」では、精神障害の方を対象とした生活に関わる困りごとや工夫などについてのアンケート調査を実施しました。その結果を踏まえ、困りごとへの一助になるようなツール『HOW TO 本』の作成に取り組んでいます。

毎回の部会開催時には、区内の社会資源を紹介・説明する時間を設け、地域の資源について改めて知る機会としました。また、精神保健福祉法改正の流れを受け、部会参加者を講師として法改正についての理解を深める取り組みも行いました。これらの活動を通して、支援者の資質向上を図ると同時に地域の強みや特徴、社会資源の発掘・活用方法や多職種連携のあり方等の地域課題について共有しています。今年度は新たに就労移行支援事業所も参加機関に加わり、活動を通じてネットワークの強化も図りました。

地域の活動団体からの依頼を受け、学齢期の子を持つ親を対象に『卒業後の支援体制』についての講義を行いました。当事者の方を含め各支援団体の方にもご参加いただき、卒業後の支援体制について事例も交えてお伝えしました。その後グループワークを通して交流し、様々な立場の方同士で話すことでネットワークの強化にもつながったと感じています。今後も、地域に向けた啓発活動をはじめとして理解を深められるような活動を企画・実施し、更なる理解促進に努めます。

4) 権利擁護・虐待の防止の取組

成年後見制度に関する情報提供や活用支援、虐待防止の取り組みを行いました。成年後見制度に関する支援者向けの研修会や説明会の他、「成年後見サポートネット」「市民後見サポートネット」に継続して参加することで、障害分野と高齢分野の視点の違いを学ぶことができ、支援力の向上と関係機関との連携強化を図ることができました。

個別ケースにおいては適宜制度の案内を行い、利用を希望される方には申し立てに向けた支援を行いました。様々な関係機関と連携して支援を行うことで、今年度は4名の申し立てが家庭裁判所から受理され、制度の利用につながりました。世帯で申し立てを行うケースも複数あり、親の高齢化に伴うサポート力の低下により実際の生活に影響をきたし、緊急的な介入が必要なケースが増えた印象を受けています。

権利擁護や虐待に関する個別ケースの情報については、定例カンファレンスの場を活用し定期的に共有しています。また、虐待防止の取り組みとして自立支援協議会「全体会」の場を活用し、支援の場における虐待・権利侵害について、専門の講師を招いての研修を実施しました。法人内では、職員を対象に意思決定支援についてのアンケート調査を実施し、現場での実際の取り組みや課題について確認しました。

5) その他地域の状況に応じた独自の取組

区内の誰もが暮らしやすい地域づくり（共生社会）を目指して、個別の利用者支援からのつながりやフォーマル及びインフォーマル活動への参加と各活動との関係構築を図るよう取り組みました。主な取り組みとして、①区民活動センター「お結びプロジェクト（活動紹介展）」、②ハートプラン小委員会へ参加しています。

①には、活動団体の一つとして参加させていただきました。団体の中には障害支援に興味を持ってくださっている方もおり、有意義な時間となりました。次年度に向けて新たな取り組みの提案もいただいています。

昨年に続き参加している②では、地域の関心ごととして障害者や障害者支援の認知の低さを改めて感じました。今年度の取り組みの中では、当事者の参加や協力を提案させていただき、障がいのある方のことを知っていただく機会となりました。今後地域の中で一緒に参加していくことへの足がかりになったと感じています。

その他、定時制高校の教員とつながる機会を得て定時制高校への訪問を行いました。様々な状態像や家庭環境にある生徒が在籍しており、ヤングケアラーや発達障害など支援の届きにくい環境にある方への支援を考えるきっかけになりました。声を上げにくい状況にある本人や家族へ自己理解や肯定感を高めていけるような支援も当然必要ですが、地域で支える仕組みについても検討が必要だと感じています。また、コミュニティ研究部会では、当事者の声を聞く場でもあり社会資源とつながるきっかけにもなることを目指してグループ活動を行いました。今年度は所属が曖昧な方を中心にお誘いすることで、拾いにくい声を聞く場として、またその方たちの交流の練習にもなりました。

利用者のイラストを活用した戸塚区基幹相談支援センターのパンフレットもようやく完成し、今年度はそれを活用して各所へ周知も行うことができました。

個別の利用者支援では、これらの活動と連動しながら、地域の新たな資源につながる事ができたと感じています。

6) 地域生活支援拠点機能の整備に向けた取組

今年度も引き続き、緊急が想定されるケースをはじめ、様々なケースの共有・検討を区役所・生活支援センターとの3機関による定例カンファレンスで行い、実際の緊急時の場面でも連携をしながら支援を行いました。

ネットワークづくりの取り組みとして、地域ケアプラザ主催の地域ケア会議への参加や、区内4か所の地域ケアプラザ（汲沢、南戸塚、上矢部、舞岡柏尾）の5職種との話し合いを行い、今年度で区内全ての地域ケアプラザへのヒヤリングが終了

しました。これらの取り組みを通じて、改めて基幹相談支援センターについての理解を深めることができましたが、ケアプラザから基幹への相談の流れや分野や職種の違いによる連携等の課題が明らかになりました。これらの課題は共有できている部分もあるため、引き続きケースや今年度のような取り組みを行っていく必要があると感じています。

その他、潜在的ニーズの把握のために『フードバンク浜っ子南』の活動へ参加しました。また、令和5年度版の戸塚区障害福祉マップの作成も行いました。

(2) 関係機関・関係施設との連携・協力

1) コーディネーター業務

施設見学や授業への協力依頼、講師派遣依頼などがあった際には、その目的や依頼内容に合わせて対応しています。

今年度は、静岡県志太榛原地域自立支援推進会議就労部会より研修講師依頼をいただき、横浜市の自立生活アシスタントなど地域生活の支援の取り組みについて報告しました。物理的なものありきで支援を考えがちですが、地域で安心して生活するということは精神的なものや人とのつながりが大切だと私たちも改めて実感する機会となり、枠にとらわれた支援ではなく「人を見て」支援をしているかどうかを常に考えていきたいという思いを強くしました。

今後も、地域の学校や施設との交流の機会を持ち、地域の様々な機関とのつながりづくりに努めていきます。

2) 定例会議＜外部機関・団体＞

区役所・生活支援センター・基幹相談支援センターの3機関連携の場として「戸塚区定例カンファレンス（全体会／分科会）」を継続して開催しました。各機関の近況や区内の計画相談支援の実施状況の共有の他、3機関で共有が必要なケースの確認やケース検討等を行っています。身障知的担当ケースワーカーとは、分科会の場を活用し、虐待が疑われるケースをはじめとした権利擁護が必要なケースの共有や、成年後見制度利用に向けた対応状況の確認、特別支援学校卒業予定者についての共有等を行いました。また、昨年度作成した計画相談アセスメントスケールを利用して、計画相談支援が必要な方についての共有も随時行っています。

その他、以下の会議に参加し、関係機関との連携や研鑽の機会としました。

会議名	主な参加機関	開催頻度
戸塚区定例カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・戸塚区役所 高齢・障害支援課 身障・知的担当および精神保健福祉担当 ・戸塚区役所 こども家庭支援課 ・戸塚区役所 生活支援課生活困窮担当 ・戸塚区生活支援センター 	毎月1回 (※4月は休会)
基幹相談支援センター連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉局 障害施策推進課 ・基幹相談支援センター 主任相談員 	毎月1回

基幹 担当者会 ・地域移行担当者会 ・独自の取組担当者会 ・権利擁護担当者会 ・地域生活支援拠点担当者会	・健康福祉局 障害施策推進課 ・基幹相談支援センター 各取組担当者 <地域移行・地域定着の促進の取組>担当者 <地域の状況に応じた独自の取組>担当者 <権利擁護・虐待の防止の取組>担当者 <地域生活支援拠点機能の整備に向けた取組>担当者	各担当 年 2 回
発達障害地域連携プログラム	・発達障害者支援センター ・戸塚区生活支援センター ・戸塚就労支援センター ・戸塚区役所 高齢・障害支援課 身障・知的担当および精神保健福祉担当	年 4 回
成年後見サポートネット /市民後見サポートネット	・戸塚区役所 高齢・障害支援課 高齢者支援担当 障害者支援担当（身障・知的担当および精神保健福祉担当） ・戸塚区社会福祉協議会 あんしんセンター ・地域包括支援センター 社会福祉士 ・神奈川県弁護士会 ・リーガルサポート神奈川支部（司法書士会） ・ばあとなあ神奈川（社会福祉士会） ・コスモス成年後見サポートセンター神奈川支部（行政書士会） ・横浜市市民後見人バンク登録者 ・後見的支援センターとつかエコー ・横浜生活あんしんセンター／よこはま成年後見推進センター	成年後見 サポート ネット 年 4 回 市民後見 サポート ネット 1 回
移動情報センター推進会議	・健康福祉局 障害自立支援課 移動支援係 ・横浜市社会福祉協議会 障害者支援センター ・戸塚区社会福祉協議会 ・戸塚区移動情報センター推進委員 （区役所、障害福祉サービス事業所、特別支援学校等）	年 2 回

（３）部門内、部門間連携

部内では、グループウェアを活用して日々の情報共有を行う他、月 1 回の定例会議および週 1 回のミーティングを継続して実施し、ケースの共有や支援方針の確認、担当業務についての共有等を行いました。各相談員のケース数も増え、ミーティングだけでは全ての事項を十分に共有しきれないことから、新たに各担当業務の進捗状況を共有する場として月に 1 回の担当業務ミーティングの時間を設けました。全体で共有する時間を作ることで、担当者が抱えるのではなく全体で取り組むという意識を持ちやすくなったように感じています。

業務ですれ違いになることが多いですが、抱え込みを防ぐため、日々の業務の中では確認しづらい疑問や悩みごとなどについても共有できるよう話しやすい雰囲気づくりに引き続き努めています。上手くいった事例や地域情報についてもお互いに共有し、アイデアを出し合うことで、各ケースの支援にも広がり生まれ、それぞれのスキルアップにもつながったと感じています。

部門間の連携では、相談支援部から日中活動や生活支援の利用につなぐケース、家族の状況や身体状況の変化等により各部から相談につながるケースなど、引き続き各部と連携した対応が必要となっています。本人にとって必要な支援が行えるよう、グループウェアや会議等の場を活用しながら、随時の情報共有に努めました。

(4) 戸塚区地域自立支援協議会の運営

戸塚区地域自立支援協議会が立ち上がり、今年度で15年目となりました。

基幹相談支援センターは、区役所・生活支援センターと共に組織の中核を担う立場として、安定的な運営が行えるよう努めています。

今年度は、区域の課題に応じた検討の場として、3つの分科会（「地域啓発と当事者参加の機会を考える分科会」「自主製品の販売を通じた社会参加の促進を考える会」「重心分科会」）を組織し、それぞれの課題や必要な取り組みについて検討しました。分科会内で話し合われた内容は全体にフィードバックし、積み残した課題については今後も継続して検討を行います。

昨年度は各部会等の代表者を構成員とする「区域で啓発を考える分科会」を発足し、一年をかけて区域での地域啓発の取り組みについて検討してきましたが、今年度は担当者会に場を移し、継続して区域の啓発について検討しています。具体的な取り組みとして、2月にイオン東戸塚での普及啓発イベントを企画・実施し、各部会で作成したパネルの展示や交流企画の実施、区内事業所の自主製品販売等を行いました。

全体会は、年度当初の予定通り、年2回（8月・1月）開催しました。第1回目は、戸塚区として継続的に取り組んでいる『権利擁護』をテーマに、第2回目は近年関心が高まっている『ヤングケアラー』をテーマに全体研修を実施しました。どちらの研修も、講義とグループワークを通して参加者が「自分なら何ができるのか？」を考えることで、それぞれの日々の支援を振り返り、必要な視点を再確認する機会となりました。事務局としても、これらの研修を通して区域で何かできるのかを考える機会になったと感じています。

<活動内容>

会議名	活動概要	参加者
代表者会	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の活動報告および次年度活動計画の報告 ・次年度の取り組みの方向性と年間予定の確認 ・区内の日中サービス支援型共同生活援助事業所による事業報告 ・その他協議会に関する意見交換の実施 	中瀬 芦名 今井
事務局会議	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会、担当者会の内容検討 ・各部会、連絡会、分科会の活動状況の把握および予算申請の承認 ・各部会から挙げられた課題の検討 	中瀬 芦名 今井
担当者会	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会、連絡会、分科会の活動状況の共有 ・各部会から挙げられた課題の共有・検討 ・協議会活動全体に関する事項の協議や意見交換等 	中瀬 芦名 今井
全体会	全機関が参加する場を活用した研修会・講演会を企画 ◆第1回（8月）会場開催 全体の取り組みの柱でもある【権利擁護】をテーマとした研修を実施 ・『権利擁護研修』 ・講師：夢21福社会 山口博之氏 ◆第2回（1月）会場開催 【ヤングケアラー】をテーマにした講演会を実施 ・『横浜市ヤングケアラー研修事業 ～ヤングケアラーの暮らしと声を通じて学ぶ・考える～』 ・講師：一般社団法人 Omoshiro 勝呂ちひろ氏・青木大三氏	中瀬 芦名 斉藤 川島 関口 河野 今井 + 職員 (常勤)

部会	コミュニティ研究部会	地域の障害理解促進と業種を越えた地域ネットワークの形成、支援のあり方や地域課題についての検討を目指し、以下の活動を実施 ・定例会議においての情報共有と、支援のあり方についての検討 ・部会参加機関の利用者を対象に余暇活動（お月見会）を企画・実施 どのような企画にニーズがあるのか意見交換を行った。	斉藤 (松丘)
	リスク部会	障害児者支援におけるリスクの分析と低減を目指し、障害児者支援の現場における様々なリスクについて検討 今年度は①虐待・不適切支援、②制度対応、③感染症等をテーマに議論	(武藤)
	児童部会	・通所支援事業所向けに研修会を開催。(テーマ:問題行動に対する支援方法) ・既存の社会資源(フォーマル)についてのリスト化および整理の実施	関口 斉藤
	通所支援事業所連絡協議会(児童部会)	・事業所のこだわり(通いたくなる事業所の環境づくり)、業界動向等についての情報交換 ・児童部会と合同での研修会の開催	
	相談支援部会	・人材育成の一環として、グループスーパービジョンを実施(継続) ・事例を通じて知識を習得し、理解を深める目的で、勉強会を実施 ・実務に関する情報の共有・交換と、事業所同士の繋がりを深めるため、グループワークを実施	芦名 川島 今井 (松丘) (武井)
	精神保健福祉部会	『にも包括』における協議の場として、関係機関の相互理解や連携のあり方等について検討。今年度は以下の活動を実施 ・戸塚区内を中心とした事業紹介の実施 ・当事者の声を反映したHOW TO本の製作(※昨年度から継続) ・ネットワークの構築および既存の社会資源をつなげていく取り組みの実施	河野 今井
連絡会	グループホーム連絡会	・業務や利用者支援に役立てられるよう、身近な課題についての意見交換を実施 ・グループホーム職員が参加しやすい方法(オンライン開催)で研修を実施 ※予定していた当事者活動は、感染症のため中止	(三野) 川島
	就労移行支援事業所連絡会	※令和4年度から事業所間での集まりを開始。今年度途中から自立支援協議会『就労移行支援事業所連絡会』として活動している。今年度は以下の取り組みを実施 ①事業所交流会 ②地域の関係機関との勉強会 ③地域機関に向けた事業所プレゼン ④テーマごとのスタッフが集まる座談会 ⑤戸塚区周辺地域の求人共有	-
	日中情報交換会	※今年度は実施なし	-
分科会	自主製品の販売を通じた社会参加の促進を考える会	・昨年一年間の話し合いを通して、販売機会の確保や情報共有の仕組み、情報共有の場の必要性について全体で確認。今後の会の持ち方や具体的な取り組みについては結論が出ず、今年度の活動で再検討 ・事業所の種別やスタンスの違いから会の方向性が統一しづらく、今後は別の形での活動の場を設けていくことを確認、分科会は終了	中瀬 芦名 斉藤
	重心分科会	分科会として活動を継続しながら、参加機関の現状や課題について共有・検討する場として、以下の活動を実施 ・社会資源の不足や人材育成についての課題共有や近況報告の実施 ・意見交換を通じた事業所間のネットワーク作り ・生活介護事業所、地域活動支援センター(身体・知的)へのアンケートの実施、および戸塚区の現状について共有	川島 河野 芦名
	地域啓発と当事者参加の機会を考える分科会	当事者の参加できる形態を模索し地域に障害福祉を啓発すること、地域啓発のあり方を振り返り自分たちができる地域啓発の方法を模索することを目標に、以下の活動を実施 ・イオン東戸塚での啓発イベントにて、当事者の書いたメッセージカードを展示し、気に入ったものを持ち帰ってもらい、代わりにカードを書いた当事者へのメッセージを書いてもらうことによるコミュニケーション創出を目指した ・日中活動中の事業所同士をつないでのオンライン交流を企画・実施	(林) (二見)

(5) 学習・研修参加

相談員としての資質向上、技術・知識の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No.	月	研修名	場所	参加者
1	7月	相談支援従事者現任研修<1日目>	横浜産貿ホールマリネリア	芦名※
2		ひなたやま支援学校夏期公開講座	ひなたやま支援学校	斉藤 芦名
3		鎌倉支援学校夏期公開講座	鎌倉支援学校	芦名
4	8月	『権利擁護支援・ネットワークの実践』研修	横浜市健康福祉総合センター 4階ホール	関口
5		戸塚区地域自立支援協議会権利擁護研修	戸塚区役所	全員
6		相談支援従事者現任研修<2日目>	横浜産貿ホールマリネリア	芦名※
7		相談支援研修 I	横浜市健康福祉総合センター 4階ホール	関口 斉藤※
8		パーソン・センタードな視点で未来を見つめる ～パーソン・センタードケア再考～ 『ナラティブ・ソーシャルワーク (支援)しない支援の方法』	オンライン (You Tube)	斉藤
9	9月	相談支援従事者初任者研修<3日目>	横浜産貿ホールマリネリア	芦名※
10		相談支援研修 I	横浜市健康福祉総合センター 4階ホール	関口 斉藤※
11		令和5年度『生活困窮者自立支援制度におけるアウトリーチ支援事業研修』	横浜市健康福祉総合センター 4階ホール	川島 芦名
12		生活支援センターとの合同研修 『精神障害者の地域生活支援のために』	戸塚区生活支援センター	全員
13	10月	公益社団法人神奈川県社会福祉士会 公益社団法人化10周年記念事業 『生きづらさを抱える若者のSOSが聞こえますか』	神奈川中小企業センタービル 14階多目的ホール	斉藤
14		講演会・対談 『ASDの人の单身生活に向けての準備と移行後の生活』～支援者と当事者で語る、生活に必要な力とサポート～	横浜市社会福祉センター 4階ホール	川島
15		学齢期～若者のメンタルヘルスの理解とポイント	横浜市技能文化会館	今井
16	11月	相談支援従事者初任者研修	横浜産貿ホールマリネリア	関口 川島※
17		ご本人らしい生き方に近づく意思決定支援 ～成年後見業務における 本人意思の確認・尊重と意思決定支援～	横浜市技能文化会館	斉藤
18		「感覚のつまづき」と日常生活への影響	横浜市スポーツ医科学センター	川島
19	12月	あさひ公開講座「愛着障害の理解と支援の基本」	サポートセンター連 /ZOOM オンライン	斉藤
20		相談支援従事者初任者研修	横浜産貿ホールマリネリア	関口 川島※
21		精神保健福祉研修 『妄想のある方への対応と支援の方法』	ZOOM オンライン	斉藤 今井
22	1月	保土ヶ谷区ヤングケアラー研修	保土ヶ谷公会堂	芦名
23		戸塚区地域自立支援協議会全体会 ヤングケアラー研修	戸塚区役所	全員
24		相談支援従事者初任者研修	横浜産貿ホールマリネリア	関口 川島※

25		自立生活アシスタント勉強会	産業貿易センター4階	斉藤
26	2月	第1回 EXCYTE	健康福祉会館8階会議室 ／オンライン	関口 斉藤
27	3月	成年後見制度研修	かながわ県民センター	今井

※インストラクターとして参加

4. おもちゃ文庫事業

(1) 利用実績

<令和5年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼動日数	20	21	22	20	20	21	21	20	20	19	19	20	243
子ども	138	217	175	236	248	265	218	180	200	211	242	277	2,607
親	123	186	162	204	213	243	189	163	175	192	204	250	2,304
合計(月)	261	403	337	440	461	508	407	343	375	403	446	527	4,911

<令和4年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼動日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	22	241
子ども	128	89	125	148	198	127	116	80	180	132	151	165	1,639
親	103	79	113	127	152	104	96	62	144	108	123	135	1,346
合計(月)	231	168	238	275	350	231	212	142	324	240	274	300	2,985

新型コロナウイルス感染拡大の影響で閉鎖していた木の砂場を4月より再開しました。3年ぶりの再開のため、初めて遊ぶ親子が多く、遊び方を丁寧に説明しました。体全体で木の音や感触を親子で楽しむ様子が多く見られ、利用者の増加につながりました。

最近の傾向では0歳児の利用が増え、1歳児以下が主体となることが多くありました。0歳児の遊び場として区役所や他施設から紹介されるケースが増えたこと、2歳から幼稚園のプレ保育利用、親の産休明けに伴う保育園入園等が主な要因となっています。また、戸塚地域療育センター通園児クラスの団体利用が5件ありました。貸し切りになると共に、担当職員と事前調整を行い環境整備することで、円滑に親子で楽しんでいただくことができました。これをきっかけに個人で利用する親子が増え、安心して遊ぶ場所ができたと好評をいただいています。

地域交流事業により土曜日におもちゃ文庫を開放した際には、0歳児から6歳児まで幅広い年齢の子どもたちで活気づき、父母や祖父母の方にも、おもちゃ文庫にて子どもたちと共に遊んでいただく良い機会となりました。

(2) 遊具・絵本・環境の整備

新型コロナウイルス感染症が5類に移行となった5月8日より、マスク着用のお願いや利用前の検温を廃止しました。一方で、利用者の手洗いや手指の消毒、換気タイムやおもちゃの消毒は継続しました。5月以降様々な感染症が流行した状況においても「ここでは、安心して遊ぶことができる」との言葉を数多くいただきました。

木の砂場の再開に伴い、使用を見送っていた木のおもちゃ類も再開し、遊びの中心に据えました。木製ファームラックには多くの野菜が並び、本物に近い外観やずっしりとした感触と温かい雰囲気を楽しみながら、ごっこ遊びができるようになりました。

療育センター通園の親子の利用が増え、なかでも肢体不自由児の遊びづらさが課題でしたが、グラビティチェアを購入したことで、快適に座位を保持しながらの遊びが可能となりました。

毎月の壁面制作と利用者体験制作は季節を感じることができる内容で実施し、大変好評をいただいています。また、材料に日中活動部の作品を取り入れることで、活動内容を知っていただく良い機会となりました。

(3) 課題・検討事項

木の砂場を再開しましたが、対象年齢は2歳以上となっています。木玉の誤飲防止チェッカーや注意喚起の案内を提示するとともに、低年齢児の保護者には口頭にてお願いすることで事故防止を心がけました。

0歳児の増加に伴い安全面の注意が更に必要となっています。活発な高年齢児と学び合う機会を大切にしたいと考えます。また、発達に心配があったり障がいを持つ利用者が増え、他の利用親子と共に遊ぶうえで適切な配慮が必要となります。

全ての利用者にとって多様性や共生社会を身近に体験しながら、楽しく安全に遊ぶことができる場であるよう、職員間で情報共有しながら、引き続き検討していきます。

(4) 学習・研修参加

職員としての資質向上や技術・知識の獲得を目指し、7月におもちゃインストラクター養成講座を受講しました。

No.	開催月	研修名	場所	参加者
1	7月	おもちゃインストラクター養成講座	東京おもちゃ美術館	二見 林 大石 松本(栄)

5. 余暇活動支援事業

(1) 利用実績

5月より新型コロナウイルス感染症が5類に分類されたことを機に調理余暇である「クッキングぴかり」を再開し、多くの応募がありました。また、夏頃より外出の企画を再開し、こちらも定員以上の応募がありました。特に初企画となった「ディズニーランドに行こう」の余暇では30名以上の応募をいただき、車いすを利用されている利用者の貴重な外出の機会となりました。

プログラム	開催日	募集対象	応募者数	当選人数	参加人数	欠席数	ボラ数
クッキングぴかり①	5月19日	成人	19名	5名	5名	0名	3名
	6月16日				5名	0名	
	7月21日				5名	0名	
キーホルダー作り &ぬりえ	5月13日	成人	12名	6名	6名	0名	0名
	9月3日	小中学生	7名	5名	1名	4名	
ミニ四駆を走らせよう	5月13日	成人	4名	4名	4名	0名	0名
ひかりで パンづくり体験をしよう	6月10日	成人	14名	5名	5名	0名	0名
	8月11日		22名	5名	3名	2名	
海ほたるへ行こう	6月10日	成人	28名	5名	4名	1名	0名
ジグソーパズルをしよう	7月15日	成人	9名	6名	5名	1名	0名
スヌーピーミュージアム に行こう！	7月15日	成人	31名	6名	6名	0名	0名
原鉄道模型博物館へ 行こう	8月11日	成人	17名	5名	5名	0名	0名
ひかりで晩ごはん	8月18日	中高生	4名	4名	3名	1名	2名
	9月8日		2名	2名	2名	0名	
	9月22日		3名	3名	3名	0名	
みなとみらいで空の旅	9月3日	成人	16名	5名	5名	0名	0名
カラオケパーティーを しよう	10月14日	成人	16名	5名	5名	0名	0名
ホットプレートで おやつ作り	10月14日	成人	14名	5名	3名	2名	0名
	2月25日	小中高生	7名	5名	—	—	—
クッキングぴかり②	10月20日	成人	11名	5名	5名	0名	3名
	11月17日				4名	1名	3名
	12月15日				4名	1名	2名
ズーラシアに行こう！	11月26日	小中高生	5名	5名	4名	1名	0名
ジグソーパズルをしよう	11月26日	成人	6名	6名	5名	1名	0名
ディズニーランドへ行こう	12月2日	成人	37名	5名	5名	0名	0名

ぴっかり冬の 鍋パーティー	12月23日	成人	10名	5名	5名	0名	0名
	1月13日		6名	5名	4名	1名	
京急ミュージアムへ 行こう	12月23日	成人	14名	5名	5名	0名	0名
お部屋でキーホルダー 作り	1月13日	成人	9名	6名	4名	2名	0名
クッキングぴかり③	1月19日	成人	13名	5名	5名	0名	1名
	2月16日				5名	0名	
	3月15日				4名	1名	
イチゴ狩りへ行こう	2月25日	成人	14名	-	-	-	-
ひかりでパンづくり体験 をしよう	3月9日	成人	18名	-	-	-	-
スヌーピーミュージアム へ行こう！	3月9日	成人	19名	-	-	-	-
葛西臨海水族館へ 行こう！	3月23日	成人	21名	-	-	-	-

(2) 課題

小中高生を対象とした余暇では、休日の放課後等デイサービスの普及もあって応募が減少している傾向で、定員割れしている余暇もいくつかありました。一方で、成人対象の余暇は応募者数が増加傾向にありましたが、企画によつての応募者数にバラつきが出てきてしまっていることが課題として挙げられました。

(3) 次年度の取り組み

人気のある企画については継続していき、企画によつて起こる応募者のバラつきを抑えるため、定員を割ってしまう企画については内容を充実させたり、新しい企画に変更をすることで、順次アップデートを図っていきます。また、外出を伴う活動も積極的に実施します。

6. 地域交流事業

(1) 貸室利用実績

<令和5年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	15	9	14	13	4	11	10	15	10	11	9	11	132
利用人数	99	56	89	86	24	72	70	94	65	83	76	76	890

<令和4年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	8	10	10	10	6	13	11	13	10	9	12	13	125
利用人数	59	70	67	66	50	92	76	102	74	60	83	85	884

「東戸塚ひかりおもちゃ病院」については、毎月2回（第1・第3火曜日）開催を継続しました。

(2) 体験参加型イベント

地域の団体や企業とコラボレーションした体験参加型イベントを複数行いました。

No.	開催月	イベント	内容
1	4月	ひかりサテライトラジオ	公開ラジオ収録
2	8月	親子で作ろうトートバックづくり	スニップスタンプ講習
3	11月	ヤマト繋がるプロジェクト	なるこDEダンス
4	11月	まんまるだるまのお話し会	絵本読み聞かせ
5	12月	親子でリフレッシュ体操	産後エクササイズ・ダンス体験
6	1月	おばあちゃんといっしょにうたおう	懐かしい歌と手遊び

エフエム戸塚やヤマト福祉財団と共催イベントでは、福祉にとらわれない人たちとの交流の場ができました。学生ボランティアがたくさん参加し、日中活動利用者との楽しく過ごす時間となりました。

「森の絵本ひろば」や「東戸塚うたう会」等のボランティア団体を招いたイベントも行いました。参加者からのアンケートには、普段できない体験ができ、また開催してほしいという言葉いただきました。

(3) 他施設・機関主催行事への参加

今年度も地域のイベントに参加しました。

No.	開催月	イベント	内容
1	8月	みんなで作るとつかっこ夏まつり	パン・自主製品販売
2	10月	戸塚ふれあい文化祭	日中活動部作品展示
3	11月	戸塚ふれあい区民まつり	パン・自主製品販売
4	3月	障害啓発イベント 2024 ～あったか繋がる戸塚～	パン・自主製品販売

(4) ひかり主催行事

施設主催のイベントとして、5月に「ぴっかり★おもちゃ交換会 AND お楽しみ会 第2回」、9月に「ぴっかり★レモン祭り」を開催しました。

「ぴっかり★おもちゃ交換会 AND お楽しみ会 第2回」は、昨年度に開催し好評の声が多く2回目の開催となりました。戸塚区在住の全盲の女子大生によるハーブ演奏会も行い幅広い年齢層のお客様に楽しんでいただきました。

「ぴっかり★レモン祭り」は、一般社団法人みんなのレモネードの会とのコラボレーションとしての開催でした。小児がん支援チャリティーとしてレモネードの販売をメインに様々なブースを出展しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に引き続きどちらも感染対策を十分に行いながらの開催となりました。

7. 各委員会

(1) 広報委員会

広報誌は2回(4月・2月)発行し、イベント等について発信しました。

新しい取り組みとして、職員の名刺をリニューアルしました。利用者が普段描いている絵を使用し、名刺を通じて施設の雰囲気を感じていただけるようなデザインに仕上げました。出来上がった名刺を協力してくださった利用者にも見てもらいました。自分の絵を指さしして喜ぶ方や「次は何を描こうかな」とやる気を出してくださる方がいらっしやいました。

戸塚区基幹相談支援センターの相談員に協力してもらい、施設紹介の動画作りを企画しました。動画の構成・編集等は、聴覚障害のある映画監督に依頼しました。撮影日には日中活動の利用者にも出演してもらいました。現在、来年度の完成を目指して進めています。

(2) 保健・衛生委員会

昨年同様、2か月毎に委員会を開催しました。委員全員の出席は調整が難しい日もあったため、当日欠席する職員には、事前に委員会の議題を伝え、意見があれば事前に聞いておき、委員会の中で話し合い、より活発な意見交換をすることができました。また、2か月毎に浴室の定期清掃を実施しました。劣化した清掃用具の交換や必要な清掃用具を新たに購入(高圧洗浄機等)し、汚れの落ちにくい箇所まで丁寧に清掃することで、利用者に気持ち良く使用してもらえるように努めました。

例年通り7月・1月(夜勤業務のある職員のみ)に健康診断を実施しました。感染症予防のため、医療機関と会場や健診方法の確認を行い、時間帯によって受ける利用者・職員のタイムスケジュールなどを調整しました。

夏季には熱中症予防対策として、送迎車内に経口補水液とスポーツドリンク、瞬間冷却剤、冷却シートを準備しました。また、体調不良者に適切な水分の補給を促すため、年間を通して経口補水液を常備しました。

11月には職員・日中活動利用者を対象に、インフルエンザの予防接種を実施しました。

館内清掃に関しては、清掃業務を委託している業者に、月1回のペースで施設の階段や床・ベランダ周りの排水口等を清掃してもらいました。

館内で使用する医療品については、適宜看護師と連携し補充を行いました。

(3) リスクマネジメント委員会

職員体制の変更に伴い、予防管理組織表を修正・変更しました。

東戸塚地域活動ホームひかりとホープ川上では、8月に地震を想定した避難訓練、2月に火災を想定した避難訓練を行いました。

職員の資質向上を目的とし、委員会メンバーにて横浜市民防災センターへ赴き防災研修を受講しました。研修を経て、施設の防災の在り方について会議で検討する場を持つようにしました。

消防署の職員に話を伺い、施設の現状に合った避難方法について助言をしてもらえよう計画を立てましたが今年度は実施までに至りませんでした。また、在籍している職員に向けた、さすまた講習・AED講習については次年度開催予定としています。

東戸塚地域活動ホームひかりは、福祉避難所になっており、防災備蓄品を保管しています。適宜、新しい備蓄品との入れ替えや使用期限の確認を行い整理しました。

毎月の職員会議で事故報告書を共有し、参加職員を含め検討していくことで再発防止に努める機会としました。

2か月に1度の頻度で会議を開催し、課題に対する検討を行いました。

(4) 給食委員会

昨年度に続いて2か月毎に委員会を開催し、委託業者と利用者の食事に関する事項についての情報交換を行いました。

食数の当日変更や食事提供時間に関して改めて職員全体に周知し、スムーズな配膳や提供、充実したメニュー内容を検討しました。

嚥下の機能低下がみられる利用者の食事は、新たにソフト食という形で提供を開始しました。実際に提供に至るまでの間、利用者に試食をしていただき、打ち合わせを重ねてきました。

毎月のお楽しみメニューは季節に見合ったメニューを用意しました。また、利用者や職員からの意見も伺って、スープの温度設定や白米の固さ（水分量）の調整をしました。

Ⅱ. ラフォーレさくら

1. 利用実績（定員 20 名）

<令和 5 年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在籍人数	19	19	19	19	19	19	19	19	19	18	18	18	—
稼働日数	20	20	22	20	19	21	21	21	20	18	19	20	241
延利用者数	254	243	278	257	224	257	252	243	248	209	240	256	2,961
利用人数/日	12.7	12.1	12.6	12.8	11.7	12.2	12	11.5	12.4	11.0	12.6	12.8	—
送迎利用者数	3	3	7	25	18	8	17	5	14	2	2	5	109

<令和 4 年度>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在籍人数	20	20	19	19	19	19	20	20	19	19	19	19	—
稼働日数	20	17	22	20	19	20	20	20	20	18	19	22	237
延利用者数	229	213	280	257	209	243	262	260	259	231	245	295	2,983
利用人数/日	11.4	12.5	12.7	12.8	11.0	12.1	13.1	13.0	12.9	12.8	12.8	13.4	—
送迎利用者数	14	14	15	12	10	12	19	10	15	10	6	12	149

今年度は、在籍人数 19 名（男性 9 名、女性 10 名）でスタートとなりましたが、治療とリハビリに専念するために 12 月末で 1 名が退所しました。体調不良のため中々通所できませんでしたが、食べ物の制限、水分や嗜好品の制限、お金を管理されている中で、ラフォーレさくらに通い仲間と話をすることだけを楽しみにしていた方でした。日帰り旅行もみんなと行きたいという強い思いもありましたが、叶わず退所せざるを得ない状況になりました。長年一緒に過ごし支援してきた中で、もっと本人に寄り添ってあげられることはなかったのだろうかという思いがあります。

昨今受けた研修では、利用者の高齢化や看取りについての内容もありました。家族やグループホームだけの問題ではなく、本人との関係性を生かした通所先や関係機関の協力体制も必要になってくると知り、ラフォーレさくらとしての役割を改めて教えていただきました。

上半期で課題として挙がっていた「支援体制の見直し」については、マンツーマンの対応を必要とする利用者の支援のため、ボランティアの増員を行いました。まだまだ人が足りない状況です。新規利用者を受け入れる体験や実習を行うためにも、引き続き利用者に寄り添っていただく支援者の増員を目指します。また、障害理解を深めるため、ボランティアを含めた支援者の勉強会を開催し、18 名の参加がありました。支援者一人ひとりの希望や困ったこと、必要なことに寄り添えるよう一緒に考えながら、今後も支援の向上につなげていきたいと思っております。

2. 日中活動

(1) 作業について

昨年と同様、新鮮卵の販売、自動車部品や消しゴム袋詰めなどの下請け作業、機織りや縫製、編み物などの自主製品販売を行ってきました。

卵販売に関しては、今夏は猛暑だったため産卵に影響し、仕入れ時間の変更など余儀なくされました。そのため、仕入れ体制の見直しを行い、ボランティアの協力を得ながら行いました。

個々の力量や特性を把握した作業提供や時間の工夫が、以前から課題に挙がっていましたが、今年度は、その人ができることに着目し提供を行いました。新規作業時は、マンツーマンに近い形で働きかけを行い、慣れるまで丁寧にサポートをしました。その結果、自ら進んで新たな作業にも取り組む姿が見受けられました。

自主製品開発や制作を行うため、障害者支援センターより助成金を受けて、ラフォーレさくらオリジナル製品となるような作品づくりを模索する機会をいただきました。江戸時代から伝わる伝統工芸を講師より学び、地域の方からいただいた着物や布を使った小物製作を目指して「折り」「つまみ」を複数組み合わせさせた「つまみ細工」の体験を行いました。専用治具の提供や折り紙で練習するなど、何度も作業工程の見直しを行い「玉飾り」が完成しました。出来上がった作品は、横浜そごうや神奈川県民ホールにて展示される予定です。

(2) 生活プログラムについて

利用者会議や個人面談で出た意見を参考に、レクリエーションや創作活動を計画しました。また、「頑張ってきたこと」「次期に向けて」など、利用者個々の発表を皆で聴き、利用者同士で士気を高め気持ちを一つにする機会を作りました。

No.	開催月	プログラム内容
1	4月	・機織り講習 ・つまみ細工教室(2回) ・絵手紙教室 ・パンづくり教室 ・レクホールスポーツ ・Tシャツしぼり染め体験 ・和菓子づくり教室
2	5月	・機織り講習 ・つまみ細工教室(2回) ・絵手紙教室 ・パンづくり教室 ・レクホールスポーツ ・ふれあいスポーツ大会 ・歯科検診
3	6月	・機織り講習 ・つまみ細工教室(2回) ・絵手紙教室 ・パンづくり教室 ・レクホールスポーツ(スポーツインストラクター) ・蕎麦打ち教室 ・ザンギを食べよう♪ザンギ専用ペプシを飲もう♪ ・日帰り旅行(マザー牧場)
4	7月	・機織り講習 ・つまみ細工教室(2回) ・絵手紙教室 ・パンづくり教室 ・レクホールスポーツ ・健康診断 ・蕎麦打ち教室 ・パラバルーン運動(横浜市スポーツ協会)
5	8月	・機織り講習 ・つまみ細工教室(2回) ・絵手紙教室 ・パンづくり教室 ・レクホールスポーツ(PT) ・蕎麦打ち教室
6	9月	・機織り講習 ・つまみ細工教室(2回) ・絵手紙教室 ・利用者決起会 ・レクホールスポーツ(スポーツインストラクター) ・本大岡地区防災訓練

7	10月	・機織り講習 ・つまみ細工教室（2回） ・絵手紙教室 ・蕎麦打ち教室 ・レクホールスポーツ（スポーツインストラクター） ・パンづくり教室 ・まだまだ暑いぞ！納涼しよう会 ・健康相談（訪問看護）
8	11月	・機織り講習 ・つまみ細工教室（2回） ・絵手紙教室 ・蕎麦打ち教室 ・レクホールスポーツ ・味噌づくり教室 ・みかん狩り ・ポッチャ大会
9	12月	・機織り講習 ・つまみ細工教室（2回） ・絵手紙教室 ・蕎麦打ち教室 ・レクホールスポーツ（スポーツインストラクター） ・パンづくり教室 ・障害者作品展 ・日帰り旅行（ディズニーリゾート）
10	1月	・機織り講習 ・つまみ細工教室（2回） ・絵手紙教室 ・蕎麦打ち教室 ・レクホールスポーツ（スポーツインストラクター） ・初詣（弘明寺観音）
11	2月	・機織り講習 ・つまみ細工教室（2回） ・絵手紙教室 ・蕎麦打ち教室 ・パンづくり教室 ・恵方巻スイーツを食べよう ・バレンタインデーチョコパン作り ・ポッチャ大会
12	3月	・機織り講習 ・つまみ細工教室（2回） ・絵手紙教室 ・蕎麦打ち教室 ・レクホールスポーツ（PT） ・ホワイトデーチョコパンづくり ・労をねぎらう会 ・本大岡地区ニコニコウォーク

3. 地域交流について

設備提供やボランティア活動、プログラムの参加を通して、地域住民との相互理解を深めました。

No.	開催月	行事	場所	参加者
1	4月	支援者事前講習会（和菓子づくり）	ラフォーレさくら	地域住民
2	8月	味噌づくり体験	ラフォーレさくら	地域住民
3	9月	利用者決起会	ラフォーレさくら	地域住民
4	10月	まだまだ暑いぞ！納涼しよう会	ラフォーレさくら	地域住民
5	11月	ポッチャ大会	地区センター	地域住民
6	2月	支援者勉強会（障害特性と虐待防止法）	ラフォーレさくら	地域住民
7		ポッチャ大会	ラフォーレさくら	地域住民
8	3月	本大岡地区ニコニコウォーク	本大岡地区	地域住民
9		支援者事前講習会（クラフトバンド）	本大岡地区	地域住民
10		労をねぎらう会	ラフォーレさくら	地域住民

4. 他機関や支援者間の連携

定期的におこなっている事業検討会や連絡会、カンファレンス、モニタリングを通して意見交換や情報共有をしながら利用者の対応をしてきました。必要に応じて利用者の様子を連絡帳に記載し、家族やグループホームと情報共有を行いました。

支援者の連携に向けて、職員やボランティアが参加する勉強会を開催し、虐待防止法や虐待が起こってしまう要因、防止のためにできること等を講師より学びました。

5. 防災訓練について

6月に行われた一時避難所訓練には施設代表1名が参加しましたが、9月に行われた本大岡地区14町内会が実施する防災訓練には利用者も一緒に参加しました。一時避難所となっている公園へ集まり、安否確認や点呼をした後、地域防災委員誘導の元、住民の方々と共に指定避難所へ移動し南消防署より提供していただいた初期消火訓練、煙ハウス、防災クイズなどを体験しました。2月に行われた一時避難所訓練は、施設代表1名が参加しました。一時避難所となっている公園には緊急給水栓が設置されているので、水道局の方から給水装置を取付けて詳細の説明を受けました。その他、公園整備や備蓄倉庫の点検や清掃を行いました。

6. 学習・研修参加

研修会や学習会へ参加し、職員やボランティアの資質向上に努めました。

No.	開催月	研修・講演会名	場所
1	5月	<ul style="list-style-type: none"> 横浜の地域活動ー私たちのあゆみー 障害者総合支援法のサービス 横浜の障害者施策・相談支援事業 	オンライン
2		<ul style="list-style-type: none"> 聴くということ “望まれる傾聴の姿勢” 	横浜市健康福祉総合センター
3	6月	<ul style="list-style-type: none"> 障害児・者とその家族（本人及び家族の支援） ～ゆれうごく福祉の中で～ 家族が望む支援 本人が望む支援 	オンライン
4		<ul style="list-style-type: none"> 権利条約の批准による障害者差別解消法と 障害者虐待防止法と横浜市の取組みについて 人権侵害を防ぐために ー職員としての基礎的な姿勢ー 	オンライン
5	7月	<ul style="list-style-type: none"> 障害者支援において職員として望まれること ～日中活動における支援～ グループホームにおける支援 	オンライン
6	10月	<ul style="list-style-type: none"> 障害者虐待防止について 身体拘束当の適正化 	南区総合庁舎
7	11月	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害のある方へのかかわり ～統合失調症を中心に～ 	オンライン
8		<ul style="list-style-type: none"> 高齢期の知的障害のある方へのかかわり 	オンライン
9	12月	<ul style="list-style-type: none"> 福祉職・支援者が知っておきたいんかんの基礎知識とその対応方法 	オンライン
10	1月	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度について 	南福祉ホームむつみ
11	2月	<ul style="list-style-type: none"> ラフォーレさくら支援者勉強会 (障害特性と虐待防止法について) 	ラフォーレさくら

12	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム入居者の高齢化 ～本人の意向を踏まえたグループホーム支援 (看取り)を考える～	オンライン
----	----	--	-------

7. その他

家族が新型コロナウイルスに感染し、お休みする利用者が増えました。定期的に連絡を取り体調の確認などを行いながら、必要に応じて抗原検査キットを届けるなどの対応を行いました。インフルエンザのワクチン接種については支援者全員が完了しました。支援が必要な利用者の予約や接種については、家族やグループホームと相談しながら対応しました。

利用者個々の心身の状態を全員で知るため、朝礼にて自分で自分の体調を伝え、皆で理解する機会を作りました。引き続き、利用者の健康状態の把握と医療との連携をとりながら今後も対応していきます。

Ⅲ. 後見的支援センターとつかエコー

1. 支援内容の振り返りと整理

登録件数などは、例年並みにあり制度への関心は高まっています。

今年度は、今までの活動をより具体的に進めていくことを意識して活動しました。1つは、親亡き後のあんしんを築くために成年後見制度の活用を推進すること。もう1つは、ひきこもり状態にある家庭やなかなか医療と結びつきにくい家庭に訪問診療や看護などの利用を推進することです。「お金」と「健康」について専門家と連携するネットワークを構築することができました。また、「地域で暮らす」ための地域ネットワークづくりの一環として地域ケアプラザとの連携もケア会議などの参加を含めた具体的な関わりを持つことができました。

地域の方々と安心した暮らしを考える機会を持つために「とつかエコーとあんしんを考える集う会」を実施しました。

登録者数およびあんしんキーパーの推移は以下の通りです。

登録者数	昨年度末		147名						
	今年度	上半期	3名	4月	5月	6月	7月	8月	9月
				0名	0名	2名	0名	1名	0名
	今年度	下半期	3名	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				1名	0名	0名	1名	0名	1名
終了		26名							
合計			127名						

				登録者数		
あんしんキーパー	昨年度末		今年度		計	
	13名		4名		17名	

2. 課題

行政・士業・医療・他機関との連携もスムーズになり地域での具体的な活動の形が見えてきました。どのようなタイミングで連携し、どのような支援結果をイメージしてアプローチすれば良いのかをチームで検討し、実践することができました。しかしながら、日々の面談や訪問などから常に課題や希望をどのように支援に活かしていけば良いのかを個々の支援者がもっと具体的に支援の方向性を考えて取り組んでいかなければなりません。実際にさまざまな出来事が起こってから考える現状では、なかなか後見的支援の立ち位置から地域のネットワークをうまく活用することができません。

日々のやり取りの中でそれぞれ支援者がどのように社会資源や当事者の力を活かして支援していくか具体的に考える力をつけていく必要があります。

3. 取り組み

それぞれの支援力を上げていくためにもチームで支援の話をも具体的かつ積極的に行っていきます。会議設定はもちろんのこと、あんしんマネジャーを中心に当事者の情報共有と今後の支援について考えていけるようにコミュニケーションを取っていきます。また、地域資源を的確に把握し、活用するためにも支援室に「地域連携」担当のグループを設置して各所を周り、あんしんキーパーの獲得や障がいの方が集えるような場所や機会を地域の方と作っていくことにも取り組んでいきます。

IV. 相談支援事業所こだま

1. 支援内容の振り返りと整理

年度当初計画した通りに、東戸塚地域活動ホームひかりの計画相談未実施の方の計画を実施することができました。また、計画相談の手法についても検証しながら取り組み、効率かつ質良く支援を実践していく方法も整理ができました。しかしながら、数や資源の少なさ、全体的な需要と供給のバランスの悪さから、目指すところと実際の動きや結果の差を感じています。今後は、利用者の方により良いサービス提供をしていくためにも適正な流れを意識して事業を展開していきます。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計 画		1	4	5	6	6	4	5	9	6	5	8	6	59
モニタリング		14	15	16	17	28	10	31	15	23	21	28	17	218
訪問回数		29	34	37	40	58	30	57	38	48	56	50	40	477
契約	新規	4名	6名	2名	3名	0名	2名	3名	2名	3名	3名	2名	0名	30名
	終了	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	1名	1名	0名	3名
契約者数		60名	66名	68名	71名	71名	72名	75名	77名	80名	82名	83名	83名	-

2. 課題

障害福祉サービスの実質的な受け入れ状況などの情報を相談員が1つ1つ当たっていかないとわからない状況に時間と手間がかかりすぎています。コミュニケーションと障害福祉サービス事業所の力量を図る上では、必要なことではありますが今後は効率よく進めていきます。また、受け入れの目途もある程度決めておかないと、要望は頻繁に上がっていても対応しきれない状況は続いています。

3. 取り組み

相談員の情報交換をこれまで以上にスピーディに行っています。また、経験のある相談員から経験の少ない相談員へ情報や手法を上手に伝えていき、スムーズに計画の立案・運営をできるようにしていきます。初任者研修を受講できる職員は積極的に受講し、計画相談員として活躍できるようにフォローしていきます。

V. ホープ川上

1. 利用実績

メンバーに変わりはなく、区分6の利用者が1名、区分5の利用者が3名、区分4の利用者が2名の計6名が入居されています。10月から、365日利用の利用者1名が、区分変更（区分3→区分5）となっています。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行になったこともあり、予防的に利用を控えたり在宅支援を希望される利用者はいませんでした。

冬場になってから、利用者の病欠が増加しました。咳のみなどの軽微な症状でも、「念のため」と帰省されるケースが増えていて、長い感染症対策による家族の意識の変化が感じられます。

1月末から2月初旬にかけて365日利用の利用者が2名、週末帰省される利用者が2名、新型コロナウイルス感染症に罹患し、その影響で利用数が減少しましたが、年間を通しては微増で着地しています。

<令和5年度>

各月の状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス提供日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	31日	31日	29日	31日	366日
区分6(1名)	25	24	25	24	21	25	25	26	25	14	19	26	279
区分5(2-3名)	40	36	47	36	40	40	76	68	91	60	52	77	663
区分4(2名)	55	55	56	56	51	55	56	54	56	47	44	57	642
区分3(1-0名)	30	31	30	31	31	30	-	-	-	-	-	-	183
全利用者数	150	146	158	147	143	150	157	148	172	121	115	160	1,767

<令和4年度>

各月の状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス提供日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	31日	31日	28日	31日	365日
区分6(1名)	24	20	26	25	24	15	24	26	25	18	24	27	278
区分5(2名)	45	36	47	35	40	25	45	24	19	37	35	45	433
区分4(2名)	45	57	56	56	50	50	56	56	57	54	52	58	647
区分3(1名)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
全利用者数	144	144	159	147	145	120	156	136	132	140	139	161	1,723

2. 職員体制

泊まりの世話人兼生活支援員3名と、調理と清掃を主に担当する世話人のパート職員3名で、土日祝日の日中支援も含めて利用者の生活を支えました。

ホーム開所時から勤務しているパート職員が1名、3月末付で退職となりました。それに伴い、新たに調理と清掃を主に担当するパート職員を1名採用しました。安定した利用者支援の為にはさらに1名採用したいところですが、勤務時間が夕方であることが壁になってか、募集をしても反響がほとんど無い状態でした。人脈を頼って可能性のある方には積極的に声をかけ、実際の業務の様子を見学してもらい、4月以降の雇用に繋げることができました。

平日の泊り業務で、ホーム世話人の病欠など不測の事態があった場合に、代替りの男性職員が切れ目なく支援に入れるよう、日中活動部との連携が必要となりますが、その為の支援手順などの引継ぎ方法が課題となっています。

3. 利用者支援

(1) 生活支援

利用者それぞれのリズムで穏やかに、その人らしい生活を送っていただいています。

利用者の年齢が全員40代以上になりました。発作の頻度やそのパターンが変わってきた利用者や、健康診断で「要観察」の項目が付く利用者もおり、健康状態に関する観察力がいっそう求められてきていると感じます。日々の支援記録をできるだけ丁寧に記載するよう、職員間で確認してきました。

新たに2名の利用者が計画相談事業者と契約しました。カンファレンスの参加や、モニタリングに丁寧に対応して、情報や課題の共有をしました。

支援区分が区分3から区分5に更新された利用者に関しては、早い時には週ごとのペースで支援の手順や内容が更新されていきます。他の利用者に関しても、急な休みの連絡や急ぎの伝達事項があることがあります。速達性がある後で見返すこともできるアプリケーションも利用して支援に遅れが生じないようにしました。

ほとんどの利用者のキーパーソン（家族）が高齢となっていますが、成年後見制度を利用されている方は1名のみで、計画相談がついていない利用者も2名います。利用者が将来にわたって安心して生活を続けられるよう、家族と具体的な話しを進められるかが課題となっています。

(2) 安全な生活環境の提供

1月に365日利用されている方が新型コロナウイルス感染症に罹患しました。発症が日曜日で、4人の利用者が帰省中だったこともあり、外部にまで感染拡大とはなりませんでした。もう1名の利用者も3日後に感染してしまいました。できる限りの感染症対策をし、食事も自室で食べていただくなど接触は無かったのですが、それでも感染してしまう結果となってしまう、ホーム内で感染症を防ぎきることの限界を感じました。

5類移行により、利用者は帰所後マスクを外して過ごしている方がほとんどですが、やはり感染流行のフェーズではマスクを着用していただくほうがいいのではないかなど、対応の検討が急がれます。

(3) 事故/ヒヤリ・ハット

1) 事故

4月に1件、転倒事故がありました。以下、事故報告書から抜粋して記載します。

【事例】

- ・入浴から上がったところに浴室から大きな音がしたので行ってみると、「着替えているときに滑った」と話し、洗濯機横にかけてあるタライが落下していた。本人も含めて変化は見られなかったが、翌朝になると本人の左目横に青い痣ができており、通所後さらに大きくなってきた。その日の入浴後、職員が付き添いながら、転倒したときの様子を再現してもらった。その結果、着替えて立ち上がる際に足を滑らせて、浴室内の洗濯機に手をつき、洗濯機正面に貼り付けてあるサンダル用の大きなフックに患部をぶつけたことがわかった。少しずつしていたら、目に大怪我を負っていた可能性があった。
- 歩行に不安があり、入浴後の体の拭き上げから着衣までは床に座って行う方だったので、特に見守りはしていませんでした。事故後はフックを取り外し、長い縦手すりを設置しました。立ち座りや移動の時は必ず掴まっただくよう毎回声掛けを行い、職員もこまめに様子を見せていただくことにしました。

2) ヒヤリ・ハット

計5件のヒヤリ・ハットが発生、報告されました。

歩行が不安定な利用者のふらつき等による事例が3件と、誤薬未遂の事例が1件、自傷の事例が1件ありました。以下、抜粋して掲載します。

【事例】

- ・朝、出発前の服薬があるAさんのために、テーブルに薬と水の入ったコップを準備しておいた。しばらくして、出発準備を終えた他利用者のBさんが、迷いもなく座ってその薬を飲もうとしていたので慌てて止めた。よく見ると、コップがAさんのものではなく、Bさんのコップだった。
- Bさんも食後に服薬がある方でした。出発前の服薬は無いのですが、自分のコップが置かれているのを見て、躊躇なく「飲むもの」と理解されたようでした。それ以降は、先に置いておくことはせず、本人が座ってから薬の準備をするようにしています。

4. モニター活動

10月に横浜市社会福祉協議会 障害者支援センターが実施する第三者によるグループホームモニター活動が実施されました。法人及びホープ川上の事業概要と現況の説明を行いました。

5. 学習・研修参加

職員としての資質向上、技術・知識の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No.	開催月	研修名	場所	参加者
1	7月	市民防災センター 地震・火災体験ツアー参加	横浜市民防災センター	三野
2	1月	戸塚区地域自立支援協議会・全体会 「ヤングケアラーの暮らしと声を通じて学ぶ・考える」	戸塚区役所	三野
3	2月	人権擁護と職場のコミュニケーション	戸塚区地域自立支援協議会 グループホーム連絡会 ※オンライン受講	三野
4	3月	グループホーム入居者の高齢化 ～本人の意向を踏まえた支援（看取り）を考える～	横浜市社会福祉協議会 障害者支援センター ※オンライン受講	三野

6. 防災の取り組み

9月に地震、3月に火災を想定した避難訓練を行いました。避難訓練に合わせて、持ち出し用備品の確認や、備蓄食料の賞味期限の確認も行いました。

3月の訓練は祝日に行い、日中で利用者は5人、職員が一人という場面での避難誘導について検証しました。